

468

特233-648



\*1200600324107\*

特233

648

昭和青年會本部編

神示の國防

天聲社發行



始





特233  
648



# 神示の國防

國防大運動に邁進するは  
皇道信奉者の最大急務なり

昭和青年會本部編

日本對世界戰の終るまで  
國防大運動に邁進すべし



天  
皇  
御  
覽  
下





筆師郎三仁王口出 ・ 姿神の尊立常國

常立の尊姿

國常立尊の姿神の尊立常國

筆師郎三仁王口出





筆師郎三仁王口出・姿神の尊野雲豊

## 序

天津日嗣の日の御子にます我が大君は、天祖大神より三種の神器を傳承し、全世界の統治者たる御しるしとなさせ給ふ。

この神器の尊嚴なる所以は、それが世界の主師親たる三徳即ち至尊の大御稜威を具現し給ふ所に存する。

即ち璽は仁慈無限の親たる御徳を、鏡は聖明日月の如き師たる御徳を、劔は神聖不可犯の主たる御徳を顯はしてゐる。

我が大君は宇宙の主宰神たる大神の主師親の大御稜威を具現して、地上に君臨し給ふ無二の現津御神たることを表徴して、形ある三種の神寶を繼承し給ふのである。

三種の神器は我皇道の眞髓である。即ち天下を安國と平けく知し召し給ふべき御天職を惟神に保有し給ふ大君は、仁慈を以て御本體となし、日月の如き明教を以て萬民を教化し、神聖不可犯の天皇權を以て萬邦を統治し給ふ。



日本の國是亦右の本義に則り、萬國に對しては愛善の徳を以て之を和め、萬民に對しては絶對の眞理たる神教を普及し、更にその背後に神聖不可犯の神劍を堅持し、惡逆無道をしてその野望を抱く隙を與へしめざる事を要する。この三徳の三位一體的發現によつてこそ始めて日本は天下を悦服し得るのである。

至仁至愛を眞に感得した時、之に射向ふ及は折れる。次で萬民を悦服せしむるものは明教即ち指導精神の最高なるものである。

劍のみによつて従へたる天下の永續しない事は青史の立證する所であつて、必ずや仁愛と明教と神勇の相伴ふを得て萬全を期し得られる。

併し乍ら現代の如く惡逆無道、愛を解せず、教を受けず、權謀術數、點詐策謀を事とする列國に向ては、斷乎として神劍の發動を要する。

從來日本の對外方針は仁愛の進りにあらずして、外尊内卑の姑息なる因習に源を發し、皇道を冒瀆する甚だしきものがあつた。大死一番宜しく神聖の仁徳に神習ひ以て天下の計を爲すべきである。

在來の教なるものは外來の教法を無理に日本に適合せしめんとした畸形のものが多かつた。世界の經綸を行はんとする日本は速かに明教たる皇道の眞髓に徹せねばならない。

最後に日本は世界の指導者即ち主師親の國である。故に神權の發動の一たる武力の行使に當つては、必ず問罪の師、膺徳の軍たるの自覺と神聖を失つてはならない。必ずや親が子をして改過遷善せしめん爲の熱愛の送りであり、單なる激怒、憎惡であつてはならない。

然し日本は今や超非常時といふよりも、最後の決心を取らねばならない時運に際會してゐる。即ち慈愛を以てするも、眞理を以てするも正義に依るも列國は覺醒せず、飽く迄一腹となつて我を袋叩きにし、彼等の野望を達して天下を白人の泥靴に蹂躪せんとするからである。換言すれば眞正の主師親を亡ぼして、我慾の暴君たらんとしてゐるのである。

日本の國是にして蹂躪せられ、正義にして抹殺せられんか、全世界は暗黒無明、支離滅裂、混沌泥濘と化する事火を睹るよりも明かである。

愈神と惡魔との戦ひが始まつたのである。地上を天國と化するか、地獄と化するかの最後の戦ひ、即ちハルマケドンの戦ひである。



彼等の内にも正義を愛好するものも皆無ではない。此等に對しては極力皇道を推廣し、飽く迄反逆するものには破邪顯正の劍を斷乎として揮ふべき秋となつた。

彼等は偽善の國である。外交的辭令や國際的宣言によつて彼等の真相を把む事は不可能である。明暗遠近を照徹し、過去現在未來を超越する神明の照鑑による神示は、彼等の計謀と心境を八咫の鏡にかけたる如く明かに示されてゐる。本會は茲に神示の一節を紹介して九千萬同胞の決意を促し、國是の貫徹成らずんば共に死せんことを誓ふものである。

かゝぐる所の神示は九牛の一毛にも過ぎない。未だ時局柄發表を見合すべきものも多々あるのである。しかし日本の決意を固める爲めには本篇に掲ぐる所を以て十分である。進んで求むる人々には門戸は無限に開放されてゐる。

本書は主として劍即ち破邪顯正に力を注いでゐる爲、筆勢は特に鋭い。しかしその奥には壘と鏡のなごやかさと朗かさが隠されてゐる事を考慮に入れて心讀されん事を望む。

昭和八年三月一日

昭和青年會本部

はし が き

一、本書は國祖國常立尊並に豐雲野尊が、皇道大本開祖出口直子刀自並に現皇道大本總統出口王仁三郎師の手を通して、日本並に世界の神と人とに下されたる神示のうちから、國防に關するもの若干を拔萃し、之を時局と對照して、信者各位の國防運動に對する根本精神の確立を願ふ爲に編んだものである。

一、愈神示の大峠即ち超非常時にさしかつた今日、九千萬同胞各位は既に覺悟を極めては居られるであらうが、古今未曾有の大變局であるだけに、狼狽と不安の雲を拂拭する事は困難であらうと信ずる。この不安と狼狽を一掃して眞に最後の決心を定めて朗かに、舉國一致國難に當つて頂く爲に、皇道大本以外の方にも判り易く書いたのである。

一、殊に近代戦の慘憺たる修羅場裡に活躍さるゝ外征將士の士氣を鼓舞し、大信念を得て頂き度い念願も此の書に籠められてゐる。

一、内にあつて治安を維持し、國力を統制して國是の貫徹を雙肩に擔ふ責任ある方々、即ち官



吏、軍人、在郷軍人、青年團員、婦人會員、殊に國防協會員、國防研究會員各位には是非精讀が願ひ度い。

超非常時には超非常時の覺悟が要るからである。

一、本書は國防に關する常識を徹底普及せしむるパンフレットを出版しその附録として添へる豫定であつたが、國家の先覺各位に呼びかけるの急務なるを感得し、先づ本書を編んだのである。國防パンフレットは之が姉妹篇として續いて出版すべく、軍部の御後援の下に目下執筆してゐる。

これは曩に出版して多大の好評を博してゐる「舉國制空」と略同一の體裁とし萬人向きのものとする豫定である。

昭和八年三月一日

編者識

### 神示の國防 目次

序 文

はしがき

一 緒 言	一
二 神國日本の國防	五
三 皇道世界の建設	三
四 神示は何故實現する？	三
五 外交問題	二七
六 國際聯盟 附軍縮問題	三七
七 滿洲國承認問題	四七
八 日本攻略の戦法 附日本の速戰即決	四八



九 日露問題 ..... 六三

一〇 日支問題 ..... 六九

一一 日米問題 ..... 七七

一二 日本對世界大戰 ..... 八二

一三 經濟問題 附經濟封鎖 ..... 九〇

一四 國家總動員 ..... 一〇三

一五 結 言 ..... 一〇六

神示の國防 目次 終

一 緒 言

大正十年事件以前の皇道大本は、神示を眞向に振り翳し、日本對世界の大戰來、その序曲としての日米日露戰爭來、或は根本問題として、皇道の宣布實行による日本の道義的世界統一の最大急務なるを臆面もなく絶叫した。

當時に於ては現今の所謂軟弱外交は外交の基調とせられ、時勢は未ださまで急迫せず、加ふるに歐洲大戰後世界の救世主となりたる米國の鼻息を窺ふに急であつた我上下の趨勢は、吾等の主張を以て流言蜚語となし、國際親善を害するものとして多大の疑惑を抱き、一方他宗教の中傷、政黨關係等々と相俟つて大なる誤解を招き所謂大正十年の大本事件なるものを誘發するに至つた。

而も此の日本々來の國是である皇道の推廣による道義的世界統一を目標とし、敬神尊皇愛國に邁進する眞正日本人の集團に對し不敬の名を冠せられた事は一の奇蹟であり皮肉であつて、



「大本にあつた事は世界に映る」との神示の如く、今や國際場裡に於て終始正義を貫徹せる日本が、滿洲事變を轉機として國是の遂行に邁進せんとするや、全世界より平和の攪亂者、國際法規の蹂躪者、侵略者の罪名を被せられ、悲愴なる覺悟を覺悟するに至つた場面と好一對であつて、全く誤解と認識不足の恐るべきを痛感せざるを得ない。

如何に誤解によるとはいへ、不敬の二字を冠せられる皇道大本は爾來謹慎十二年、皇道の名を遠慮し、一時世界立替の神策なる日本の世界統一に關しては鋒鏑を斂め、人類愛善なる世界立直しの神策に重點を置き海外遠く皇道を宣布し、大本神諭に示さる、「立替と立直しが同時に行はれる」てふ神策に奉仕し多大の功績を挙げたのである。

即ち世界のあらゆる宗教、精神團體と提携或は合同の形式によつて、日本に天來の高遠なる精神文明の存するを知らしめ、眞正日本の本態を理解せしめて道義的に日本に信頼せしむるの道を開いた。——その最も大なる貢獻は支那の道院と合同して東亞の平安に重大なる根柢を築き、這般の滿洲事變に際しても多大の功績をあけ、日滿の精神的連鎖をして牢乎たらしめた一事である。

然るに神示によつて明示されたる如く、約十二年延ばされた神界の經綸立替は漸く時節到來し、大本人が大正十年以前に於て絶叫し警告したる神示は、日米日露戦といひ更に進んでは日本對世界戦争といひ、識者を待たずして之を豫感し得る迄に立至つた。更に眞正日本人は悉く、腐敗糜爛し且外面如菩薩内心如夜叉の歐米文明と歐米人の心境に嘔吐を催し、之を排撃すると共に、皇道の擴充による日本の道義的世界の統一によらずんば到底全世界の平和は黃河百年の清を待つも之を求むべからざるを覺醒するに至り、少くも亞細亞聯盟を建設して、先づ處けらるゝ亞細亞の同胞を白人の桎梏より救ふの急務なるを意識するに至つたのである。

吾等は吾等の絶叫したる神示の實現と、國民先覺各位の奮起とを見て欣快措く所を知らない「神は氣も無いうちから、世界の事を前つゝに知らずとよ」との神言の炳乎として日星の如きを仰ぎ見て、神州に儼乎として宇宙を照鑑し、億劫の未來をも掌を指すが如き絶對無限の神力を具備する大神(もとの活神)のまします事を覺り、超非常時日本の光榮ある前途を祝福し、益々信仰を固め信念を強うして神州護國の聖業に邁進すべく勇躍を禁じ得ないものがある。

茲に本年舊一月元旦、神示によつて本來の皇道大本に復活し、その最初の事業として國防大



運動を全国的に起す事として既に各地に於て活躍をつゞけてゐるのであるが、茲に神示の一端を摘録して、神意の所在と世界の動きとその將來を指し示し、國防大運動が神意達成の爲の最も重大なる一面なるを強調し、上下一致この超非常時に際して國防大運動に極力邁進されん事を希ふ次第である。

神示は皇道大本の眞髓である。國防大運動を起すに當り、再び神示を拜誦して我等の行動を神意に副はしめねばならない。この意味に於て國防に關する神示の若干を蒐集したのであるが、之を綜合すれば「國防大運動は神州を奪ひ世界を奪はんとする魔軍に對する神軍の總動員の騷起であつて、日本の道義的世界統一完成の曉まで舉國一致邁進すべき神州神民の一大天業である」との結論に到達した。これ茲に「神示の國防」を上梓して各位の奮起を促す所以である。

## 二 神國日本の國防

本來皇國は英・米・佛・伊・獨等と對立すべき地上の一國ではない。全世界を統治し仁慈四海に治く萬民繁榮、鼓腹擊壤の太平の御代を招來すべき最高の責務を有する天上の一國である。

天祖天照大御神は皇孫瓊々杵尊に「豊葦原瑞穗國(全世界)は吾子孫の治むべき地なり」と宣ひ、天壤無窮の寶祚を約束して此の神州(中津國)に鎮まらしめ給ふた。

次で神武天皇は此の大神勅を具體的に宣明して「六合を兼ねて以て都を造り、八紘を掩ふて而して宇と爲す亦可らずや」と世界統一の詔を發し給ふたのである。

即ち形に於ては地上の一國なりと雖も、その使命に於て尊嚴に於て正に天上の儀を顯現したる萬邦無比の神國であつて、統治者主權者即ち天の位に立ち、決して被治者從屬者たる地の位にある一國ではないのである。

故に皇位の尊嚴なる萬世一系、神聖不可犯。その國體は金甌無缺、君民一體、情は父子の如



く、而も君臣の別明々白々、他の追隨を許さず。その國威は盛強無比、之に反抗する國は必ず亡ぶ。遠くは元、清、近くは露、獨の如く、一旦皇國に反抗したる主權者の間もなく失脚するは偶然ではないのである。

單に誓約し宣言せられたるのみならず、天壤無窮の神勅は萬世一系の皇運の彌榮として實現し、萬代に亘つて變る事はない。これ古今獨歩の大神蹟であつて、天地主宰の大神靈の炳として日星の如く守護し給ふ確據明徴でなくて何であらう。之をしも信從せずして亦何をか信ぜんやである。

神示

大正五、舊一、八

あまり此世に大きな運不運があるから、何方の國にも口舌(註 紛争)が絶えんのであるから、世界中樹掛を引いて、世界の本をこしらへた天と地との先祖の誠の王で、萬古末代善一つの神國の王で治めて、口舌の無い様に致すぞよ。……我好の行り方では此の世は何時迄も立たんぞよ。

この世界は一つの神の王で治めん事には、人民の王では治まりは致さんぞよ。日本本の王は神の王であるぞよ。外國の王は人民の王であるぞよ。

神示

明治二十六年

お照しは一體、七王も八王も王が世界にあれば此の世に口舌が絶えんから、日本の神國の一つの王で治める經綸が致してあるぞよ。……是から世界中神國に致して、世界の神も佛も人民も勇んで暮さすぞよ。

右の神示を拜しては更に日本の神國にして世界統治の一大責務を有する主位の國であり、従つて日本人の重大なる使命を覺悟せざるを得ないのである。

太古伊弉諾大神が、矛を以て潮こをろくに掻きなし給ひ、矛の先よりしたる雫から國を造られたと古典にあるのは寓語であつて、大地は既に國常立大神によつて造られたもので今更



新たに造られる必要はない。神政亂れて濛へる國となり、混亂紛糾してゐるのを、たつた二、三人の元凶を平けられた矛のしづくから、群雄が鳴りを鎮めて地上が平安に治まつたといふ謎である。

宗教家や信仰家の中には愛のみを説き、武を非常に嫌ふものがあるが、それは一知半解の謬見であつて取るに足らないものである。

愛の重要な事は今更論する迄もないが、皇國に於ては愛と智と親と勇とを四魂の用と稱しその併進を尊ぶのである。

愛一點張りの基督教の發祥地ユダヤが二千六百年前に亡國となり、慈悲一點張りの佛教の發祥地印度が他の屬國となつて今尙地獄の苦を嘗めてゐるのはこの眞理に背反してゐたからである。

抑も大慈大悲を標榜する釋迦の稱へた阿彌陀如來さへも、一方には彌陀の利劍を握り、一方には玉を持つてゐられる。劍や武力は濫りに用ふれば百害あつて一利なきものであるが、用法を誤つて害毒を流すものは單に劍や武勇のみではない。愛も親も智も時處位を誤り或は使用者

の心が悪ければ害をなし、藥も誤つて用ふれば毒となる。武の象徴たる劍は之を正しく用ふる事によつて天下を亂すの惡逆をして乘するの隙を得ざらしめ、善を守り惡を抑へ平和幸福を招來する爲の大なる神器となる。

古來日本は尙武の國であり、細矛千足國と稱して武人、武器の精銳優秀にして充實せる國である。これ皇國の尊嚴なる一面であつて全世界を統御するには必ず之を要するのである。

武を瀆し、或は之を亂用したるもの、弊害を擧げて、武を輕んじ或は之を嫌ひ、單に愛のみによつて世界を悦服し得べしとなすは、謬れるも亦甚だしと稱すべきである。

皇國の神寶三種の中草薙の神劍は正に神武を示すもので、その威徳に對し青人草が悉く靡き伏すといふ盛徳を表現されたものであつて、燒津ヶ原に於ける日本武尊の故事による命名のみではないのである。

神示

大正五、舊一一、八

日本は神の初發にこしらへた國、元の祖國であるから、世界中を守護する役目で



あるぞよ。世界の難儀を助けてやらねば、神國の役目が濟まんから、日本の國の人民を一番先に神心に捻直して、外國人まで一人も残らず神心にかへてやらねば日本の神と人民の役が濟まないので、天の大神様へ日々良の金神（註 國常立尊の亦の御名）がお詫を致して、世の立替を延ばして貰うて、世間に一人でも多く日本魂に致したさに、神は晝夜の氣苦勞を致して居るから、日本神國の人民なら、チトは神の心も推量致して、身魂を磨いて世界の御用に立ちて下されよ。

○

明治三一、舊五、五

日本の人民の天からの御用は、三千世界を治め、神の王の手足となりて、我身を捨て、神皇の御用を致さなならぬ國であるから、外國には従はれぬ尊い國であるのに、今の日本の人民は皆大きな取違ひを致して居るぞよ。

右の神示に示さるゝ如く皇國は世界の宗主國であつて全世界を安國と平けく統御する責任の

ある國である。故に本來國防なるものゝあらう筈がない。

皇軍は世界の統治者たる天立君主の神劍であつて、惡逆無道を平けて萬民をその塔に安んぜしめ、全世界の平安を守る爲めの天兵神軍である。故に元來敵なるものがないのである。従つて相對的の戰爭なるものはなく、改過遷善を促し、轉迷開悟せしむる爲めの愛の鞭たる征伐問罪の師があるのみである。

今や天下亂れて英・米・佛・伊・獨・露・支等々群雄割據地獄修羅の相を現じ、皇國即ち皇御國は世界を統べ、天下一家の平和の天國を地上に確立すべきその本來の責任を痛感する時とはなつた。

皇國にはこの信念あれども、列強は皇國を見る事群雄の一として之を同列に見、或は一段下等なる人種として之を蔑視し、白人萬能の天下たらしむる爲めの一大障礙として黃禍論をとなへ、皇國を孤立せしめ、力を殺ぎ、復た立つ能はざらしめんと謀つてゐる事は今回の國際聯盟の暴戻によつて明かである。

こゝに於てか本來は敵なきも、現在に於ては我を亡ぼさんと計るものを敵として起たざるべ



からざるに至つたのである。これ皇國に國防が必要缺くべからざる所以である。而してその兵備の如きも國際條約に於て掣肘せらるべき性質のものにあらず、自主獨往天下の經綸を行ふに十分なる程度に於て最少限のものとして定むるを本則とせねばならない。

大本神歌の一節

此の神國の民草は	無限の神助皇恩を
感謝し奉り責任の	重大なるを覺悟して
兵力平和の戰に	優勝ならん事を期し
猶又思想新舊の	靈的戰爭に打勝ちて
天壤無窮の神國を	赤誠籠めて守れかし

### 三 皇道世界の建設

#### 朝拜の祝詞と國防大運動

吾等が御神前に於て毎朝高らかに奏上しお誓ひする祝詞の中に左の一節がある。

#### 祝詞の一節

邂逅に禮無く黒き心以て射向ひ奉る敵在る時は國民舉り街祖の神の傳へ賜へる敏心の倭心を振起し、劍の頭取り締り、敵の雄健び踏健び、敵の噴議を起して、海往かば水漬屍、山往かば草生屍大君の邊にこそ死なめ閑には死なじ願みは爲じと、彌進みに進み彌通りに通り、山の尾ごとに追ひ伏せ、河の瀬ごとに追攘ひて服へ和し云々



その大意は、萬一皇國に對し非禮を敢てし反逆し來る國あらば、舉國一致宜しく問罪の師（敵の噴議）を興して之を追ひ伏せ追ひ散らし歸順せしめる（註 殺戮に非ず）といふのである。

これ即ち皇國民の有事に際する天職使命であつて、吾等は毎朝かくも大神にお誓ひしてゐるのである。——特に心すべきは、右の祝詞には聊かも消極的の辭句が含まれてゐない事である。即ち敵を防げとか、お國を守れとかいつた意味の弱い點は少しも認められない。不戰條約や國際聯盟の規約や九ヶ國條約に拘泥して躊躇逡巡すべき懸念は些こしもないのである。此の點は漸次闡明する筈であるが特に初めに當て注意を喚起して置き度い。

### 人類愛善運動と國防運動

大本が人類愛善運動を唱道する關係上、右の祝詞が一見軍國主義に見え又殺伐とさへ思はれるので矛盾を感じる人々も皆無とは言へないであらう。又愛善運動から國防大運動への轉移が多少從來の階性によつてピンと核心に觸れない人や、若干の心構への轉向の必要を感じる人々も絶無とはいへない。しかし眞に人類愛善を理解してゐる人には決してこの煩悶は無いのである。

人類愛善運動を簡決に定義すれば、人群萬類を神の如き眞愛、即ち愛の善によつて悉くを救済するの大運動であると言へる。——現在列強の行ふ所の如く、權謀術數をこれ事とし、弱小民族を征服虐使して自國の利益のみを求むるが如き愛の惡を粉碎し、我が皇道の本義たる愛善正義に立脚して、善の爲めに善を行ひ、愛の爲に愛を行ひ、腹のドン底からの正義と正義の握手、愛善と愛善との抱擁による、天下一家の皇道世界を樹立するのが人類愛善の運動の本義である。

故に根本精神は終始平和を離れず、不斷、且本格的に之に向つて邁進するのであるが、一朝之を暴力を以て阻むものがあれば、方便として一時神權武力の發動を餘儀なくせられるのである。

尙國內的にこれを見るも各人各黨愛惡に立脚して鬭争し國力を弱めてゐる今日、之を結束して鐵桶の如き團結をなさしむるものは愛善そのものによらねばならない。愛善結束は日本刻下の最大急務であるのだ。



## 神の眞愛と戦争

神の眞愛と戦争とは一見矛盾するやうであるが、上述の理由によつて日本に關する限り絶対に矛盾はないのである。日本は正義以外の戦ひを戦ふ事は絶無である。日清の役は弱小朝鮮の獨立の爲に立ち、日露の役は弱國支那の爲に白人の侵略を防止したのである。日獨の役は國際信義に立脚して狂暴を抑へた。

未だアメリカの如く母國イギリスに反逆の獨立戦争に始まつて布哇を呑み、西班牙を捻伏せて比島を奪ひ、パナマを陰謀によつて獨立せしめて運河を開鑿する等、反逆にあらざれば弱小の手を捻上ぐるに等しい不義の戦ひを爲した事は一度もないのである。日清戦争にしろ日露戦争にしろ常に國運を賭して強大と戦つてゐるのは、何よりも正義の證左でなくて何であらう。正義を以て不義を討ち、仁義を以て惡逆を討つのは決して戦争ではなく、問罪の師、膺懲の軍であつて、決して戦ひ争ふのではない。改過遷善を勸める最後の慈悲の鞭に外ならないのである。即ち皇道宣布の一段階そのものであり、愛善正義を拒むの頑壁を打ち砕く神愛の拳である。

るのだ。

試みに全世界を觀よ。いづれに義を表に標榜して義を行ふ言心行一致の正義の國ありや。日本を除いて斷じてその存在を認める事は出来ないのである。

列強今日の大を爲せる所以は、その侵略史に明なるが如く、正義を表に標榜して利權をのみこれ貪り、露骨に暴力を用ゐるざれば、權謀術數、黄金と阿片と女色を以て弱小國を素り、或ひは宗教、或は政黨を利用して内紛を助長し、遂に武力を行使して之を奪はざるは稀である。

現在日支の紛争なるものは、大局より之を觀れば、東洋なる一大國を、歐米人が占領する常套手段の顯現に外ならない。即ち日本と支那を對立せしめて、張學良と南京政府を煽動し、東洋の二大國をして『兩虎相争へば一は傷き一は必ず斃る』の戦法を用ひ、その傷き斃るゝを待つて二つ乍ら勞せずして之を獲得し、東洋を白人の支配下に置かんとする策動に過ぎない。

日支兩國は速かに惡夢より醒めて、善の假面を被れる猛獸歐米列強とその參謀本部たる國際聯盟の陰謀を看破し、先づ亞細亞聯盟を造り、彼等をしてその惡心を捨てしむべく協力懸起しなればならない。



### 亞細亞聯盟と神示

歐米列強を指して猛獸と呼ぶ。その言や甚だ過激なりと難する人々もあらうが、こは神聖不可犯の神示によつて斷案を下したものである。

神示は皇道大本開祖出口直子刀自或は現皇道大本總統出口王仁三郎師の手と口とを通して高級の神靈が神が、りして開示されたものであつて、日清日露の戦ひより歐洲大戰、ついで日本對世界戦に至る大問題を始め、經濟、金融、國防、宗教、教育その他百般に互つて啓示された事が、必ず實現する、信仰なく神の實在を知らぬ人々には不可思議といふより他に批判の法なき天啓である。

### 神示

明治三一、舊五、五

外國は獸の靈魂(註) 精神又はたましひに爲りて有るから、惡が強いから、心からの誠といふ事が無きやうになりて、人の國まで弱いと見たら無理に取つて了ふ

て、取られた國の人民は在るに在られん目に遇はされても、何も言ふ事は出來ず、同じ神の子でありながら餘り非道い施政で、畜生よりもモ一つ憐いから、神が今度は出て、世界の苦しむ人民を助けて、世界中を樹掛曳きならすのであるぞよ。  
外國人は段々世が迫りて來て、食物に困る様になりたら、日本の人民を餌食に致して、徹底的に行り抜くといふ深い仕組みを致して、日本の國を取らうと致して、永らくの仕組をして居るから、日本の人民は餘程確かりと腹帯を締て居らんと、末代取戻しの成らん事が出來して、天地の神々様へ申譯のなき事になるから……。

前段は日本が白人の抑壓と搾取に苦悶する可憐の民族を救濟するの使命ある事を教示せられたものであり、亞細亞聯盟の如きもこの神示の中に包含せられ、更に皇道による愛善世界の樹立をも示唆せられてゐる。更に列強を呼んで獸といひ更に「畜生よりもモ一つ憐い」と斷言せられ、後段は彼等の腹のドン底を素破抜いて日本人の覺悟を促して居られる。實に日本侵略は彼等の根本方略であるのだ。



日本にして正義を楯とし神武を矛として彼等に降魔の利劍を揮はゞ、虐けらるゝ世界十數億少くもアジア十億の民は糾然として之に従ひ、彼等の惡逆を懲すであらう。早く日本に罪名をオツ被せて袋叩きにし、息の根を止めねば、彼等は安心して現状をすら維持する事が出来ないから、彼等存立の爲、更に世界を併呑して白人の天下たらしむるには、日本を征略するより他に方法はないのである。茲に於てか彼等は日本に罪名を被せる爲國際聯盟、九ヶ國條約、不戰條約の法網を張り、一面神示の如く猛惡なる覺悟を極めてゐるのである。

現に米國ハーバード大學の前總長ローウエルは「聯盟各國に米國とロシアが協調してゆけば、日本を世界地圖の上から抹消してしまふことなどは何んでもない」と本音を吐いてゐる。我等は決然起つて彼等の反逆を一蹴し、天來の使命たる「皇道世界の建設」に向つて募進せなければならぬ。

たゞ明治三十一年に早くも彼等の今日あるを豫告されたる神示に驚き且疑惑の念を挿む人々が多からうと思ふので、左に一言神示なるものに就て説明の勞をとる。

## 四 神示は何故實現する？

此の現實世界と共に神靈の世界が實在する事は恰も吾等の肉體と共に精神即ち靈魂があるのと同じである。

そして現界には人間即ち肉體人が住んでゐるやうに、神靈の世界には神靈が住んでゐる。人間に善人悪人のあるやうに、神靈にも善靈善神惡靈惡神があるのである。又善惡に係はらず、人間には偉大なものや平凡なものがあるやうに、神靈にも偉大なものも平凡なものもある。

此の世界は此の世の主なる神及びその分神なる絶大なる神力ある神等によつて造られた、人間も一切萬有も亦之によつて造られたのである。そしてこれ等の偉大なる神々は元の活神であつて、無始無終の生命を保ち、無限絶對の神力を保有せられ、永遠に萬有を創造されてゐる。宇宙の成生化育亦この神によつて營まれてゐるのである。

類を以て集るの譬への如く正しき神々は正しき神々で集り、邪なる神々は邪なる神々で



集團を造つてゐる。前者を正神といひその集る所を天界(天國)といふ。後者を邪神又は惡神といひその集る所を地獄といふのである。

人間が一つの動作をするのを考察して見る。手紙を書いてポストに持つて行く動作を検討して見やう。

先づ手紙を書かうと靈魂が考へる。即ち靈魂が手紙を書き出す。それが肉體に移寫されて肉體が動作する。紙を展べる、ペンを持つ、インキをつける、ペンを動かす等々。靈魂が考へてゐる事が肉體に流れて文字が綴られて行く。即ち靈魂の想念の移寫されたものが手紙である。やがて封筒に入れられ宛名が書かれて本人が之をポストへ持つて行くのである。

之を肉體の方だけで見れば本人がポストの前に立つて投げ込む時に始めて彼は郵便を入れてゐるのであるが、之を靈魂の方から見れば彼が手紙を書き始めた時には既にポストに之を投ずる事まで定まつてゐるのである。

何でもない話であるが、右によつて動作は先づ靈魂によつて始められ、次で肉體に及ぶ。肉

體は靈魂の動くがまゝに稍之より後れてそのまゝを實行するのだといふ事が判ればよい。

神靈界と現實世界との關係も之に酷似してゐる。即ち現界は現世とも書き、之を和訓では、つしよと讀む。即ち靈界を移寫したものであるのだ。神靈界に起つた事柄は必ず若干の時日或は年月を経た曉に於て現實界に移寫されるのである。

故に靈界と交通して之を見、之を豫告すれば必ず現實界に實現し來るのである。之が眞の豫言なるものである。

參謀本部の重大なる計畫は除附の將校や兵士には豫め洩らされない。如何に聯隊長が大佐だからといつても、本部の大尉の方が機密は多く知つてゐる。そして根本は參謀總長の腹にあるのである。

神界でも中心政府の總統神又は偉大なる神々は將來の事が明瞭適確に判つてゐる。其の他の神々は所謂又聞であり、噂を信ずる位である。

故に豫言にも正確なものと不正確なものがあるが、之を傳へた神の立場によるのである。正神界の偉大なる神の降臨によつて出された神示は、恰も天壤無窮の神勅の如く、幾萬歳の



未來を照徹して寸分の搖ぎも相違もない。

邪神に於ても豫告をなすものがあるが、これとても當らぬとは限らぬ。偉大なる力を有するものは相當に未來を豫告するが、宜しくその内容を検討する必要がある。そして人間に於ても悪人や輕輩には偽りの多い如く、邪神や下等の神靈の豫言などは宛にならないものが多い。更に政府の根本方針は之を何年かに互つて繼續實行される。國是の如きは滅多に變更はされない。しかし大切な事でも時に時勢に應じて變更される事も延期される事もある。

神界の根本方針も亦又此の如くであるから、若し中央政府の根本方針を神示された聖者がそれを傳へたとすれば、此の世はその豫告即ち神示の如くグンノと動いて行くのである。

皇道大本の神示は正にそれであるから毛筋の横巾程も間違ひはない。併し時に變更され延期される事も神示されてゐる事は前述の理由によつて諒解が出来ると思ふ。

○

故に明治三十一年はおろか、明治二十五年からでも今日の世界的混亂を豫告された事は何の不思議もなく、日本に於ては既に天照皇大神の天壤無窮の御神勅が今日に至るも寸分動かす、

絶對神の實在を物語つて、超非常時日本の國民に絶大の信念と光明とを投けてゐる活きたる大事實があるではないか。

左に明治二十五年舊正月の開祖初發の神示の一節を紹介する。

神示

明治二十五年正月

(一)……日本は神道、神が構はな行けぬ國であるぞよ。  
外國は獸類の世、強いもの勝ちの、悪魔ばかりの國であるぞよ。日本も獸の世になりて居るぞよ。外國人にばかされて、尻の毛まで抜かれて居りても、未だ眼が覺めん暗がりの世になりて居るぞよ。是では國は立ちては行かんから、神が表に現れて三千世界の立替立直しを致すぞよ。用意を成されよ。この世は全然新つの世に替へて了ふぞよ。三千世界の大洗濯大掃除を致して、天下泰平に世を治めて、萬古末代續く神國の世に致すぞよ。神の申した事は一分一厘違はんぞよ。毛筋の横巾ほども違はんぞよ。これが違ふたら神は此の世に居らんぞよ。

四 神示は何故實現する？



(二)からと日本の戦ひがあるぞよ。此のいくさは勝ち軍、神が蔭から仕組が致してあるぞよ。神が表に現れて、日本へ手柄致さすぞよ。露國から始まりてモウ一と戦があるぞよ。あとは世界の太た、かひで、是からだん／＼判りて來るぞよ。

日本は神國、世界を一つに丸めて一つの王で治めるぞよ。

そこへ成る迄には中々骨が折れるなれど、三千年餘りての仕組であるから、日本の上に立て居る守護神(註 人間の眞靈魂を肉體に對して守護神といふ。結局人間を指す)にチット判りかけたら、神が力を附けるから大丈夫であるぞよ。

(一)は日本人が「日本は神國」の實を忘れて如何に歐米心醉に陥つてゐるかを警告し、又世界救済の大方略を簡明に開示された絶対權威の神言であり(二)は日本對世界の經綸の一端を洩らされたもので、日本の爲政者に外國の惡計が判り神の經綸の一端が判つて來れば、神が力をつけるから大丈夫であると、全く現在の日本の眞情を指摘して激勵されてゐる如である。

## 五外交問題

### 神示の自主的外交

滿洲事變を轉機として日本が猛然立つて自主的外交に出で、今日に至つたのは全く神意の發現に外ならないのである。

これを事變の經過に見るも、滿洲問題稍や下火とならんとするや錦州爆撃問題起り、更に上海事變起りて油を注ぎ、聯盟の空氣鎮靜に歸せんとするや突如として山海關問題の起るあり、熱河問題、北支那の危險と相俟つて聯盟を硬化せしめ、不可抗の力は日本並に列強を引摺つて豫定の日本對世界大戰の渦中に投ぜずんば止まざらんとしてゐるのである。この不可抗の力を絶對神の神意そのものである。

神は夙くから日本に對して自主的強硬外交を要求し、更に進んで最後の通牒をも命じ給ふてゐるから、今日の事ある當然であつて、寧ろその遲きを恨む位である。



神示

大正七、舊正、一二

(一)是れまでのやうな事には行かんから、一か八かといふ事を、向うの國の惡の頭  
に書いて見せておくがよいぞよ。(註 最後の通牒を發せよとの意)今の日本の番頭  
(註 爲政者)のフナ／＼腰では、鬼ても怖はがりてコンナ事を書いて見せてやるだ  
けの度胸はありは致すまいなれど、神の申すやうに致したら間違ひはないぞよ。

(二)一の番頭(註 宰相)の守護神が改心が出來たら、肉體に胴が据わるなれど到底  
六ヶ敷いから、云々。

モウ惡の頭の年の明きであるから、惡い頭から取拂に致すぞよ。

(三)何事も時節が一度に参りて來て、世界中の困難が到來すると云ふことが毎度申  
して知らした事が實地になりて、一度に開く梅の花、追々分らなんだ事が明白に判  
りて來て、キリ／＼舞ひを致さなならん、夜の目も眠られんやうな事になると申し

ておいたが(註 所謂非常時日本、非常時世界の實現をいふ)一度筆先に出した事は  
皆出て來るぞよ。能く念を押しておくぞよ。念に念を押して、クドイと云はれて  
も復た念を押してあるから……。日本の人民は男も女も腹帯を確かり締てかゝらんと、  
一旦は堪ばれんやうな混雜になるぞよ。

(四)外國ほどよい國はないと、心に錠を降ろして了うてゐるから、何程實地のこと  
を言ひ聞かしても、逆様ばかりに取るから(註 頑冥固陋の思想だとか、反動思想  
だとかいつて取合ぬこと)救げやうがないぞよ。

これでもモチト先になりたら、大きな取違ひをいたしてをりたといふ事が、上へ  
あがりて霸の利いてをりた人民に自然に判りて來るぞよ。

(一)最後の通牒を發するやう嚴命し軟弱外交を叱咤され(二)追隨外交の張本や歐米心醉の巨  
頭連の失脚を警告せられ(三)超非常時來を叫んで日本人の覺悟を促し(四)歐米心醉の迷夢もや  
がて醒める時節の到來を豫告されてゐる。



而も之は事前に於ける警告であつて、その後の外交史に照せば、神のこの警告を發し給ふた眞意が明瞭になるであらう。

神示

大正七、二二、二二二

(一)外國から今に六ヶ敷い難題を持ちかけて来るが、今の番頭(註 爲政者)の弱腰では、到底よう貫かんどよ。これも時節であるから、何程智慧學がありても、今度(註 改心とは世界統治の天孫民族たる使命を自覺し、外尊内卑の迷を捨て本來の日本魂に立歸ることである) 到底改心が出来ぬなら、止むを得ず氣の毒が出来いたすぞよ。世界の九分九厘(註 最後の幕)が近よりて来たぞよ。

(二)世の立替が初まりたら、世界は上り下りで騒がしくなると申してありたが、外國の王の今の有様。(註 露、獨、塊の帝王の末路)まだノ、こんなチヨロコイ事ではないぞよ。何處へ飛火が致さうも知れんどよ。夫で永らくの間この神が出口直の

身魂を使うて、脚下へ火が燃えるぞよ、鳥が飛つぞよ、氣を注げよと申して知らしたが、日本の人民は上から下まで懲計りで目が眩みて了うて居るから、今に判りて居る人民が何程もないが、今になりてからバツツイても、モウ守護神人民の力では到底叶はんから、この神の申すやうに、今までの利己主義の精神を立直して、水晶の生れ赤子の心になりて、今度の肝腎の御用を勤めたなら、未代名の残る結構な事が出来るなり。今迄の心でやりて行くなら、十人並のお出直し、誠に氣の毒な事が出来いたすぞよ。神の申す事、毛筋も間違はんぞよ。

右の神示を基礎としてその直後の外交史を検討すれば、米國を主とするものゝみでも重要なものが左の如くである。

- 一 大正八年ベルサイユ會議に於て米國大統領ウィルソンは山東問題に關し支那を支持す。
- 二 大正十年米國加州排日法案成立。
- 三 大正十一年華府海軍軍縮會議によつて主力艦日英米の比率を三五五とする等の協定。



九ヶ國條約を締結して支那の獨立並に領土及行政的保全及各國機會均等主義を確立す。

四大正十二年日本の支那に於ける特殊權益を認められたる石井ランシング覺書を廢棄さる。

五大正十三年排日移民法案米國議會を通過す。

六昭和三年不戰條約締結。國家の政策の手段として戰爭を放棄する事を宣言し一切の紛争解決

は之を平和的手段による事を誓ふたもので、堂々たる宣言なるも米國がこれを以て世界干涉の具に供する方便と見るを可とせん。

七昭和五年ロンドン軍縮會議。主力艦の一九三六年まで海軍休息、補助艦の比率を決定、日本

は英米に對し極めて不利の情態となる。

八滿洲國問題。昭和七年九月滿洲事變突發以來國際聯盟に於て日支紛争解決に努めたるも、日

本の滿洲國承認が聯盟各國殊に非聯盟國の米國の主張と相容れず、日本の主張は悉く蹂躪され遂に日本の聯盟脱退を誘發するに至つた。

即ち神示の出でたる大正七年より殆ど一、二年の間隔を以て矢繼早に大問題が突發し、事毎に日本は讓歩の一路を歩み國威を失墜するに至つたのである。

最後に於ける滿洲國承認問題に關しては日本は舉國一致之を支持し、全權亦善戰善闘したるも、右の神示(一)に示さる、如く「何程智慧學がありても、今度は一文の價値もない云々」と示さる、如く、全く彼等に蹂躪し盡されたる有様である。

弱いと見れば飽く迄強硬に出て之を壓倒脅迫するが畜生の性來である。英國の傳統は今更乍ら見下け果てたる犬侍の所作ではないか。

しかし吾等は、徒に彼等の不法を詰る前に自らを顧みて、かく迄日本の主張が蹂躪さる、眞因を究め、改むべきは改め、伸ばすべきは大いに伸ばさねばならない。それには右神示の(二)を熟讀玩味すると共に左の神示を精讀省察せねばならない。

神示

明治四三、舊四、一八

(一)日本は結構な國土であるから、外國の惡神が日本の國を奪りて、萬古末代住居を致す心算で、惡魔計りを連れ参りて、日本の人民の身魂(註 肉體と精神)を自由自在に致して、國を汚す計りに今に一生懸命になりて着手りて居るぞよ。



日本の國に神力の無い如に致して置いて、一戦に奪りて了ふ經綸に永らく掛りて居るから、惡神のおもわくが立たら世界は泥海（註 道義地を拂ひ混沌たる世界をいふ）に成るから、そこへ成りたら可愛想でも一旦世界を潰して了ふて、最初の一から仕直しを致さな成らん如な事になるから、世界には此の先にドンナ事が破裂いたそうやら、筆先通りが出て来るから、一人なりと早く改心いたして世界の身魂を助けるやうに致さねば、日本の國の役が濟まんぞよ。

註 かく迄になつたのは、日本の精髄たる皇道を忘れ、宗教、政治、教育、思想殆ど歐米を模倣し、甚だしきに至つては神を否定し、皇上をなみし共產主義や物質萬能主義に陥つた積弊の總決算である。

(二)日本は結構な神國と申せども、今の日本は上から下まで薩張り曇り切りて、外國人よりも劣りて居るから、神國の威勢と云ふものは少しも無いから、外國人に見下けられて了ふて、何一つ日本の言ひ前が立たん事に成りて來て居るぞよ。何程智者でも學者でも叶はん事になりて居るぞよ。

註 右に述べた外交史の失敗の跡をこの神示の一節に照して猛省一番、眞正日本人と更生し、敬神尊皇愛國の徹底的實行によつて舉國一致國是の貫徹に向つて邁進せなければ日本は亡國の一路を辿るより外はないのである。

(三)日本は神徳で無いと國は立たんぞよ。今の内に日本の靈主體從の日本魂の種を拵えて斯の世を立て、日本が世界の親に成らねば（註 本來の使命、世界の親たる任を全うすべきをいふ）、世界は外國の今の行り方では、何時までも口舌（註 紛争）の絶えると云ふ事は無いなれど、日本の人民が皆外國の政治の行り方で、末代世が續くやうに惚れ込みて了ふて居るなれど、十年先を見て御座れよ、外國の惡の行り方は、化けの皮を脱いて見せてやるぞよ。

それでも日本の人民の心が餘り曇りて了ふて居るから、トコトン迄は改心が出來んぞよ。

(四)是だけ世界に澤山王がありては治まらんから、神が表に現れて、七王八王を陣曳いたさして、日本の誠の神國の、萬古末代動かぬ一つの王で三千世界を治めるぞよ



特に敬服すべきは明治四十三年に於て既に現在を豫告し徹底的に之が解決策を授け給ふた大神の御仁慈である。

(三)「十年先を見て御座れよ、外國の惡の行り方は、化けの皮を脱いで見せてやるぞよ」の神言に至つては、今度の國際聯盟の非禮に直面した同胞各位は一人も洩れなく肺肝を射貫れる思ひがあるであらう。

(四)歐洲大戰による露、獨、塊の帝王の失脚を明確に豫示されてゐるのみならず、日本の世界統一を一言にして宣言せられた莊重無比の神言である。思はず頭が下り襟を正さしめられる。

排日移民法案米國議會通過

大正十二年十二月、關東大震災後間もなく排日移民法案が米國議會に提出せられ、先づ下院を通過した。日本は我を差別待遇するものとして抗議したが、却つて上院の激昂を買ひ、上院は法案を可決して、列國環視の前で日本の顔に泥を塗りつけたのである。(本文参照)

六國國際聯盟

附 軍 縮 問 題

日本征略と世界併呑の陰謀

昭和八年二月二十一日貴族院に於て赤池濃氏は

「國際聯盟の陰にはユダヤ人の秘密結社が暗躍してゐる、即ちリットン報告の執筆者の一人たるハースをはじめ、事務局のライヒマンの如きその尤なるものである。これ等はユダヤ人の世界征服陰謀とも關係あるべく、支那に買収されてゐるドラモンド事務總長も支那に厚く反日傾向が著しいではないか。これ等の陰謀を何故阻止しなかつたか。わが國側として聯盟當局の背後の實體を認識してゐたか」

「ユダヤ人のフリーメーソン結社は日本が聯盟脱退後、さらにわが國の經濟上、社會上に對し兇惡なる魔手を伸ばし壓迫を加へて來るであらう。これ等に對する用意ありや否や」



と内田外相に對して忠告的質問を發した事は諸君の記憶に新なる事であらう。

この恐るべく、絶大の勢力を有する世界覆滅の大陰謀に就ては大本神示は常に「悪神の仕組」として警告を繰返してゐられる。而もこの結社が歐米諸國、否支那をも（日本をも）操つて踊らしてゐるのである。

これに就ては大正九年頃「大本神諭に照されたる世界覆滅の大陰謀」と題して單行本が發行されてゐるから、茲には之を省略する。

しかし互に利害關係を異にする列強列國が、結局一腹になつて日本に迫つて來る所を見れば、彼等が各國に内在して之を動かしてゐる一事を見通す事は出來ない。

神示

大正七、舊正、一二三

日本へ攻めて來て、一戰之下に奪略て、世界中を自己のものに致す仕組をしてをるなれど、今度は何方の國も叶はん處まで行くなれど、向ふの國の悪神の目的は、トコトンまで戦つてやり了ふせて、向ふの國の大將の遊園地にいたして、世界中を

悪神の頭のものに致して、モウ一段上へあがりて、王の王になりて、末代の世を此儘で續かして行らうとの大きな陰謀をいたしてをるぞよ。

右の神示によれば日本の正神に對する邪神即ち悪神の使徒等が、日本を攻略して日本を彼等の遊園地にせんとして居る事が明かである。

近時國立公園なるもの、設置が計畫されてゐるのであるが、果して日本が神の御神苑なるの故を以て之を設置されるのか、悪神の使徒の爲の遊園地を設備するものであるか、その用途、その設立の動機を慎重に考慮して決すべく、非常時日本に於ては此の如き計畫は先づ中止して之を國防費に充て、世界統一の皇謨成つて然る後神苑聖域としての設備を爲されん事を望んで止まない。

「日本は怪しからん。世界の公園地を一國にて獨占してゐるではないか。宜しく全世界に向つて之を開放すべきである」

と放言した一英人のある事を牢記すべきである。



更に右の神示は悪神の使徒が日本を征服する事によつて世界中を自由にし得る事、そして世界の王の王となつて全世界を支配せんと策してゐる事を開示されてゐる。此度聯盟の總會に於て聯盟が超國家的僭越を敢てしたのは正しくこの閃きである。

神言簡明確切、一分の隙もない。

日本をさへ征服すれば、全世界は白人のものである。而も日本は極東の天險に據り、正義を貫き、兵強く糧足り、世界最強の米國を以てするも如何とも手を下す事が出来ない。之を亡ぼすには列強を合縱連衡して之に當るを要する。之が機關として設けられたものが國際聯盟である。

ユダヤ問題の泰斗酒井勝軍氏はその著述に於て國際聯盟本部はやがてパレスチナに移され、天下に號令するに至る事を喝破し、ユダヤ人と聯盟とは一體不離のものなる事を述べてゐる。聯盟成立の動機はかうである。歐洲大戰に於て歐米各國は同士討の結果腰の立たぬ所迄弱り果てた。極東の雄邦日本は少しの手傷をも受けず、國運隆々として朝日の豊榮登るが如き勢を示してゐる。日露戦役後遂に自覺し來つた有色人種が、若し雄邦日本を盟主として動かば白

人の天下は正に風前の燈火である。こゝに白人の團結を作り、金看板をかゝけて全世界の諸國を欺き、之をその傘下に糾合し、正義人道平和の假面に隠れて先づ彼等の瘡痕を癒やし、有色諸邦を樂籠中に收めて之が銳鋒を封じたものである。

其の他軍縮會議、九國條約、不戰條約等悉くが雄邦日本をがんじ擲みにして破邪顯正の劍を抜く能はざらしむる妖術に過ぎないのである。

國際問題に對しては、日本は從來の正直一遍による失敗に鑑み、此等條約の束縛の繩目を悉く断ち切つて、獨自獨往の地歩を占め、本來の神勇と正義を遺憾なく發揮するに非ずんば、断じて生存の道はないのである。況んや聯盟が既に超國家的橫暴を敢てする今日に於てをやである。

歐洲大戰の終熄せる時、神は左の如き神示を降して日本人に警告し給ふたのである。勿論聯盟を以てその表看板の如く神聖なるものとして衷心奉仕の誠を捧げてゐる者も皆無とはいへない。しかしかゝる人々は寥々として曉の星の如く、衆惡の輿論に引摺られて何事も爲し得ないのである。



神示

大正八、六、三

五年に滿ちた大戦争も首尾よく片付き、世界は平和の榮光に輝き、人民は歡喜亂舞を致して勇んで居れど、是も夢の間であるから、まだく大きな戦争が出て來るから、一日も早く神に縋りて、日本人の行狀を致して居らんと（註 外國カブレを改めること）俄に吃驚致すことが出て來るぞよ。日本も中々安心な處へは行かぬぞよ。腹帯を締りて掛れと申すのは是からの事であるぞよ。

更に國際聯盟に對しては左の如く開示し給ふた。

神示

大正八、八、一一

今度の國際聯盟は、何も知らずに皆の人民が結構がりて居れど、この爲に國魂を混合して了ふから、世は段々と迫るばかりで、モ一つ金の力が覇張るやうになるから、世界中の困難が一層激しくなるぞよ。

聯盟は國魂即ち國民性を混合し、日本も支那も名も知れぬやうな小國も對等のものとして取扱ひ、これあるが爲に東洋の平和をいやが上にも攪亂するに至つた事は此度の滿洲國をめぐる日支紛争解決に於て各位の既に明記さるゝ所である。神明の照鑑天日の如く明かなるに今更乍ら敬服の外はない。

又金の力のモ一つ覇張る世が來るとの神示は今や目前にあらゆる醜狀を照破し盡してゐる。その最大なるものは、世界の太極たる英國が日露並に英支關係よりする利害問題に動かされ、又戦債に窮して米國に秋波を送り、日本を谷底に突き落とし、米國にシンガポールの軍港をさへ提供すると風説を聞くに至つた一事である。即ち大英帝國の節操をも黄金は容易に之を買ひ取るに至つたのである。「モ一つ金の覇張る世が來る」とは恐れ入つたる神言である。泰西の紳士國も今や黄白を以てその操を賣るの賣笑婦に劣る禽獸の正體を暴露して了つたのである。更に英國に就て、神書靈界物語（出口王仁三郎師口述）の一節を敷衍しやう。

靈界物語の一節

大正二一、一、八



日英同盟だつて其通りだないか。自分とこの國が日(二進)も三進も行かぬ様になつた時に、英(好い)考へを起して、一寸強さうな國を番犬に使い、東洋はまだおろか、西洋迄警護の役を命じ、オツシノとケシをかけて日々喜ばせ、モウ英といふ時分になると、今度は尻をクレツと向け、赤米と云つて、米の方へ握手をし、日の方へ尻を向ける、ケツは即ち月だ、それでツキ倒しといふのだよ。

そうだから世の中は何うしても利己(爾巧)な行方をせなくちや到底駄目だ。人の禪で相撲とるのが所謂外交家の手腕だ。

紳士國イギリスの正體は滑稽諧謔の中に痛快に暴露されてゐる。彼の表面は常に紳士的であり正義であるが、内容は金の爲に節操を賣る娼婦の如く、利の存する所に向つてのみ追隨するものである。

### 軍縮會議の真相

彼等の提唱する軍縮會議の表看板はこれ又正義人道を重んじ平和を愛好する堂々の論であるが、それは單なる羊の頭であつて眞實は狗の肉である。正直なる日本はその表看板を信頼して中味を知らなかつた。神は大正六年の末つ方、既に左の神示を以て豫め彼等の魂膽を別發されてゐるのである。——國際聯盟に於ける軍縮も、英米の提唱する軍縮も基調は同一である。

### 神示

大正六、一一、三

をに大蛇 狼よりも恐ろしき、異國魂(註 外國人)の奸計は、口に蜜をば含みつゝ、尻に劍持つ蜂の如く、大砲小銃の兵器を、残らず反古の紙と爲し、尻の穴まで見濟して(註 腹の底まで見徹して)時待つ時の火車(註 飛行機、飛行船)を、御國の空に轟かし、掠め取らんと曲津神、企みは實にも良けれども、日本の國は昔より、神の御幸の強き國、人は三分に減るとても、神の身魂は永遠に、續く常磐の神國ぞ異國魂の世の末と、成り定まりし幽世(註 靈の世界のこと。靈の世界に現れたることは必ず現實世界に移寫される。故に現世をうつしよと呼ぶ。)の、神の經緯も白



人(註 知らぬ人との意を兼ね)の、世の終りこそ憐れなりけれ。

即ち口に蜜を含み、甘言を以て日本を誘ひ、表には人道と平和に貢献する如き堂々たる金看板を掲げ、後には日本を刺すの劍を隠してゐる。そして大砲小銃等あらゆる軍備を縮小させ、こゝと言ふ機會に日本を欺し討ちにする計畫である。

日本も次第に彼等の腹を察し、今では最初のやうな正直な態度は取つてゐない事と信ずるのであるが、此の神示を鑑として一層戒心し、如何に苦しくとも國防を危殆ならしむる如き軍縮などを望んではならない。

日本が國際聯盟を脱し、軍縮全權を引揚げ、聊かもこれ等に拘束せらるゝ事なく、獨自の行動を採る事は正に神意に忠なるものである。この際些しの執着をも残してはならない。

## 七 滿洲國承認問題

日本の滿洲國承認問題が日支紛争の核心であり、日本と國際聯盟との正面衝突を起した眞因である。

日本は自衛權の發動によつて惡逆の學良軍を驅逐した。その後滿洲國三千萬民衆の希望によつて、王道立國の新政權が樹立され、日本は之が獨立を承認し日滿議定書によつて防衛同盟を結んだのがその輪廓でありその全貌である。其間聊かの策動も不正もない。

が、よしんば支那や聯盟の主張する如く、日本が積極的にやつたものと假定しても、三千萬の民衆をその虐政から救ひ出す爲に滿洲から暴逆の學良軍を逐ひ、王道政權の樹立を援助したとしたならば、白人の作つた不純な國際法規には觸れるが、東洋平和の根本問題、人類正義の根幹から言つて何等の罪はない。更に支那の動亂を關内に局限し、滿洲の治安と繁榮とを確保し、赤化の南進を防ぎ、以て東洋禍亂の源を塞ぐの大功があるからである。



菩薩の假面に隠れた列強の夜叉の如き本心を知る時、よしそれが彼等の作つた國際法規に觸れやうが、日本は自國存立の爲決然起つて正義の主張を貫徹しても何等道徳上の罪はない。況んや事實は最初述べたる通りであるに於ては何の臆する所も恥る所もないのである。彼等の野心に就ては前節既に述べた所であるから反覆を避けるが、左の神示に照して各位は一層決心の臍を固め、滿洲事變並に日本の滿洲國承認は全く神意に出づるものなる事を覺り、國論を統一して一點の疑念なく國策の遂行に奮進すべきである。

神示

大正五、舊三、二八

(一) 九分九厘と一厘とで、勝つか負けるか、此先末代の事をきめる大戦ひであるから、九分九厘は外國の學力なり、一厘の方は神徳の凝まりで、餘程の困難であるなれど、それでも一厘の日本の身魂に養成して(註 九分九厘の外國を歸順さすの意) 天の大神様に御目に掛けて、天と地との先祖が元の神世にいたすのであるぞよ。

(二) 向ふの國の仕組は、日本の國に兵糧が無いやうになりたら、日本の人民を餌食

にして、後へは退かんと申してをるから、日本の國から實地を始めんと、向ふの國の申すやうにして居りたら、世の立替(註 日本の道義的世界統一、地上天國の建設)も出來ず、じり／＼と身魂(註 日本魂の持主)が減りて、一旦は泥海(註 混沌の世界)になりて了ふが、何も判らん日本の人民が、外國の身魂になり切りてをるから、これ丈け世の元の生神が、實地誠の筆先を書いて見せても、自分の身體に火がついて燃えて來ねば、肯く人民は今にないぞよ。肯かなきやうにして、立替をいたさねば、外國の申すことを、眞實に聞いてをりたら、國が潰れて了ふぞよ

(三) ドチラへした所で一旦はひどいから、日本の仕組通りに、一厘の經綸で手の掌をかへして、埒よう立替をいたさねば、日本の天真地德發權地の國を奪りて、わがまゝに致す仕組をいたして居るぞよ。

正義人道の權化にして平和の女神なりと自稱してゐる白人彼等も、神の敏き御眼より見給へば(一)に示さるゝ夜叉の如き心境である。従つて日本はその言ふがまゝになつて居れば國を亡



ほされて了ふのである。此の消息は日本魂の持主ならば既に判らねばならない、判らぬのは歐米に心酔して外國身魂になり切つてゐるからである。

故に「日本の國から實地を始めよ」とある如く、積極的に當方から彼等の陰謀の裏を掻いて、日本々來の國是國策を遂行する事は神の督勵し給ふ所である。

(三)や(一)に示さるゝ如く九分九厘と一厘の大戦ひ、日本の運命を決する大戦であるから、憚憚たる道行きは覺悟せねばならないが、最後は必ず日本の勝利に歸するから、堅忍不撓護國の任を全うせねばならない。

### 滿洲事變の神因

滿蒙西の利權は惡神の奪掠を許さず

滿洲事變の眞因の中に日本の權益擁護なるものがある。左の神示は更に廣範圍に亘る日本の權益擁護を主張され、滿洲事變の當然起るべきを豫告されてゐるものである。

### 神示

大正八、一、二

(一)今度の大战ひ(註 歐洲大战)は世の立替の三番叟が濟みたのであるから、もう是で天下泰平に世界が治まるであらうと申して歡びてをると、大變な大間違ひが出来来致すぞよ。是から先になると、露國の惡神さへよう掘り出さなんだ……御寶を、今度はエベス大國(註 エは英國べは米國スはスラブ)が自由に致す仕組を致してをるが、此實は今度の二度目の世の立替の神の寶で、昔から隠してありたのであるから、體主靈從の國魂には自由には致させんぞよ。

(二)金銀銅鐵水鉛石炭木材食物は何程でも……あるから、肝腎の時に掘り上げて三千世界の建直しに使ふて五六七の神代を建ててぞよ。

(三)寒い國ではあれど、今迄人民の自由に致さぬやうに、わざと寒い國の廣い所に創造へて蓄へてありたのであるぞよ。日本の人民も外國の人民も大變な目的を立て、我の自由に致さうと思ふて、一生懸命に骨を折りてをるなれど、神の寶に人民



が勝手に手をかけたら大騒動が起るぞよ。

(四)これも時節であるから、外國の身魂がもう手を出しかけてをるなれど、九分九厘まで行つた所で手の掌を覆して、怒の皮をむいて見せてやるぞよ。

(五)海は一つ隔て、居りても日本の神の寶であるから外國の自由には神界から致させんぞよ。神が一度申した事は何時になりても間違ひはないぞよ。

(二) (三) (五)は明かに滿蒙西伯利亞の利權(產物)が日本の神の所有であることを示されてゐる。既にその若干は開發されてゐるのであるが、赤露の五ヶ年計畫は次を重ぬるに従つて其の中心を東漸しつゝあり、英米亦利權の獲得に血眼になつてゐる。彼等が本格的に手を出す時、即ち事變の起る時であると示されてゐるが、滿洲事變は日本の權益一切を一蹴して彼等(表面は學良)が之を奪はんとした動機によつて起つた。全く神示の實現である。

(四) 九分九厘迄行つた所で手の掌を覆して怒の皮をむかれ、又むかれんとする學良やエベスの憤慨は蓋し笑止の至りである。

而も(二)に示さるゝ如く滿蒙西の資源は日本が世界の立直しに使用して、五六七の神代(即ち至仁至愛の聖天子が世界に君臨さるゝ至治太平の御代、皇道實現の地上天國を指す)を建設する爲に活用すべきである。

故に小さく日本の生命線として自國存立の具のみに供せず、積極的に世界の經綸を行ふ爲、思ひ切つてその開發につとめねば、神意に副はない事となるのである。況んや私利私慾の爲の利權漁りは斷じて思ひ止まらしめねばならない。

○

皇道大本に於ては滿蒙に皇道を宣布し、彼我精神的結合の下に日本の國防を安泰ならしめ、食糧問題を解決し、進んで東亞より亞細亞の平和を確立し、世界經綸の根本を固める目的を以て、出口王仁三郎師は大正十三年蒙古入を決行し、爾後、自ら或は嗣子日出磨師、壽賀磨師、宇知磨師を渡滿せしめて經綸を進め、或は又高級宣傳使を派して日滿の親善を固め、白系露人と提携し、道院回教その他の宗教と握手しつゝあるのは、神示による滿蒙の重要性に立脚し、日本の道義的世界統一に貢献せんが爲に外ならないのである。



# 八 日本攻略の戦法

## 日本の速戦即決

神示

大正六、舊二二、二三

(一) 向ふの國はチットも急きは致さんぞよ。我の代に(註) 日本の國が奪れな子の代に奪る。子の世に奪れな孫の代に略るといふ氣の長い仕組であるから、何時になりても奪りさへしたら可いと申して、些つとも急ぎも動きも致さんぞよ。

日本の國はソナナ事を致して居りたら、國が潰れて了ふから、日本の國には天地の元の生神が、一寸の秘密が致してあるぞよ。

何事も一度にバタ／＼と埒良くいたさぬと、永う掛りたら日本も敵はん事が出来るぞよ。

註 彼等は兵力を以て急に攻略する事を爲さず、思想的、經濟的に日本を弱めるぞよ。

その崩壊を待つて奪取せんとしてゐたのである。日本としては速戦即決が急務であると示されてゐるのである。

(二) 外國の惡神の頭が日本へ攻めて来る仕組を昔から致してをりたが、モウ攻めて来るのが近寄りたなれど、日本は日本で元の生神が深い仕組をいたして居るから、日本の人民がサツパリ日本魂になりて居らんと、肝腎の時に狼狽へて腑を失ふぞよ。

口先では日本魂と申しても、腹の中に誠が無いものは、大化物であるから、今度の立替には化物は皆平けて了ふぞよ。

今度の大戰ひは人民同士の戦ひではないぞよ。神と神と、國と國との、末代に一度より無い大戰ひであるぞよ。今度の日本と外國との戦には、男も女も子供も一つ心になりて、日本の國を奪られてはならんから、年寄までも日本魂に立覆りて神國を守らねば、日本の先祖の大神へ申譯が立たんぞよ。

註 昔から持久的に日本を侵略せんとした彼等は、愈近く日本の攻略に躍進



することとなり、爰に日本對世界戦の幕が開かれるから、日未魂ある眞正の日本人は舉國一致國防に進進せよとの神訓である。

歐洲戦の末期大正六年の末に既に神は今日あるを警告し給ふたのである。

○

左の一句は歐洲大戰に對する神の御批判である。

(三)早く立替を致して後の立直しに着手らんと、何でもないことに國を潰して、腰のたつ間に合ふ人民を、大根の葉房を切るやうな憐いことにいたしても、向ふの國の何一つ效能のあることはないが、是も皆惡神のおもちやに成りて居るのであれど、世界に氣の付いた人民は一人も無いとは憐い事に成りたものであるぞよ。初發からの筆先に、今度は世界が〇分になると毎度申して警告してあるが、世界は〇分になるぞよ。

(四)明治二十五年から、出口直の手を借り口を借りて知らした事の實地が出て來る世になりたぞよ。露國から始まりて、日本と外國との大戰ひがあると申したが、時

節が來たぞよ。

外國は終ひには一腹になりて來ると申して知らしてあらうがな。この神一度申したら、何時になりても毛筋の横幅ほども違ひは致さんぞよ。これが違ふたら神はこの世に居らんぞよ。

註 日露戦争から日本對世界大戰を誘發し、歐米諸國が一腹になつて攻め來る事に就ては次章日露問題の劈頭に少しく詳説する事とする。

(五)兵隊を一旦日本へ引寄して、外國を地震雷火の雨降らして絶滅さねば、世界は神國にならんから、餘りいつ迄も神の申すことを肯かねば、三千年の仕組通りにいたすから、世界に何事ありても神と出口を恨めてくれなよ。

註 敵國の兵隊を日本へ引寄せるとは狭い意味の日本ではない。何となれば他の神諭に日本の國は地面が狭いから海外の國で力比べをするとも示されてゐるからである。即ち太平洋方面よりは日本々國へ、大陸方面はシベリア、滿蒙支に引寄せられるであらう。



(六)唐土の鳥(註) 外國の飛行機、飛行船のことの渡らん先に、神は還りて仕組をいたせども、聽く人民無き故に残念なれど、唐土の鳥が今に日本へ渡りて来るぞよ毒を空から降らして、日本の人民を絶やす仕組を昔から致してをることが、能く神には判りて居るから、永らく知らしたのでありたぞよ。早く改心致さぬと改心の間がないぞよ。神は氣をつけた上にも氣が付けてあるぞよ。モウ何彼の事が一度に實現て来るから、斯んな事なら、モ一つ氣を付けて呉れさうなものでありたと、まだ不足を申す守護神人民があるぞよ。

註 敵飛行機飛行船の襲來を警告された神示は他にもある。毒瓦斯彈の被害は戦慄に慣するもので、無防禦で居れば東京の主要地二里四方を僅々六噸餘の毒物で三十分に殲滅し得るといふ。米國エッチウッドの工廠では一日に右東京全滅戦を三十回繰返すに餘る程の毒瓦斯劑を製造する能力がある。

ロシアは頻りに空軍を擴張し、支那國民政府亦米國の支援を受けて空軍の擴張に大車輪である。日本空襲の危急は目睫の間に迫つてゐる。本會が「舉

國制空」なる冊子を發行して同胞各位に警鐘を亂打する所以亦右の神示の遵奉に外ならない。

(七)モチツトらしい身魂(註) 國魂即ち國民性をいふ)がありたら、セメテ二國程は残してやり度いと思ふたなれど、餘りエグイ身魂ばかりであるから、昔からの天地の神の經綸どほりに致して埒よく致さんと、惡が何時までも絶えんぞよ。チツトまじな身魂がありたらと思ふて延ばす程、向ふの國の極惡が、なほ惡くなるばかりでモ一つ日本の國を下にしどころか、日本の國を欺し討にいたして、奪りて了ふ惡い巧を致してをるから、靈主體從の仕組に神が致してやらんと、まだノ、惡いことを仕組てをるぞよ。

註 神は外國を改心歸順せしめんとして膺懲の時期を延ばされてゐるが、延ばせば延ばす程精神が悪くなり、日本を下目に見て、更に欺し討ちにして奪る計畫をして居るから、二國位は助けてやり度いが、もうそれも助ける事は出来ぬと決心を固めてゐられるのである。



最近日本の決意が固まつたのもこの神意の表現である。

欺し討ち。英國の聯盟に於ける約變の如きその一例である。日露不可侵條約、米國のハワイに於ける海軍大演習も特に警戒を要する。

(八)支那から昔攻めて來た折(註 元寇の事)には、それでも見せしめの爲に、三人だけは還してやりたなれど、今度外國が同腹になりて攻めて來た折には、只の一人も還してはやらんぞよ。

日本へ外國の兵隊を一旦引寄して、其後で地震雷火の雨降らして外國を往生いたさす仕組であるぞよ。

日本も靈魂の悪い、人氣の良くない所には、何があるとも判らんから、神の申すうちに、一時も早く改心をいたさんと、取返しのならん事が出來いたして、チリチリ舞を致さなならんと申して、二十七年の間知らしてありたが、其知らした實地が出て來るのが近寄りて來たぞよ。

註 神の激怒はその極點に達してゐる。「二人も還してやらぬ」の神言源として

電火の如く、最後の神權發動を宣言されてゐる。

天災地變は自然力で不可抗の力であると信じてゐるのが物質萬能者であるが、絶對無限の神力を有する元の活神には、こんな事は朝飯前の仕事である

——元寇の時に吹き起つた伊勢の神風はその見本に過ぎない。  
日本の神州神民たるもの大いに意を強うして可なりである。併し乍ら先づ日本人は日本人たるの眞精神に歸正して居なければ天祐を享受する事は絶對に不可能である。



# 九日露問題

## 露國から始まる日本對世界戰

前章神示の(四)に「露國から始まりて日本と外國との大戰がある」と示されてゐる。之に就て一言敷衍する事とする。

日本と外國との大戰とあるのは、その重點は、日本と白色人との戦ひであつて、結局有色人種の代表たる日本と白色人との争覇戦である。勿論白人の尻馬に乗る有色人種のある事を見通してはならない。

日本は本來全世界を統治すべき天來の使命を有する國であるから、主權の奪回戦であり、露國奪者反逆者に對する追討の聖戦である。

「人種の衝突」の著者ベシル・マーシウスは日露戦争を左の如く評してゐる。

「此の日本の運動が歴史を一變したのである。これが白人の進展に挑戦し、之を終熄せしめ

たのである。是が白人の侵入に對して亞細亞の一角に大きい「不可入」の標札を立てたのである。一九〇四年旅順の戦に依つて日本が大露國を破つた事が時代の終りであり新しい時代の始めであつた。之に依つて白人が阿弗利加と同様に亞組亞を分割せんとするのを止めてしまつたのである」

日露の開戦當初ドイツのカイゼルは云つた。

「ロシアは白人の爲に戦ひつゝある、總てこの北歐の白熊が、此の小なる黄色猿(日本を侮蔑してかくいふ)を一蹴りに蹴り去るであらう」

と。白人は皆カイゼルと同じ思ひであつた。

然るに小なる黄色猿は大なる白熊を見事に一蹴し去つた。喜んだのは平生白人から奴隷の如く侮辱せられ、獸の如く虐待せられてゐた印度、トルコ、波斯、アフガニスタン等々の國民であつた。彼等は日露戦争を有色人種と白色人種の力較べとして見てゐたからである。

即ち日本の戦勝は世界の三分の二の大家を有するアジア諸民族の永き眠りを破る曉の鐘とひびき、白人に對しては榮華の晝去つて凋落の夜來るを告ぐる暮鐘とひびいたのである。



加ふるに歐洲大戰に於て彼等白人は醜き本性を現はして狼の如く虎の如く噛み合ひ血みどろになつて傷いた。之に反して東方日出づる國は國運隆々として日の中天に冲せんとするの概がある。

ヤツキとなつた白人はお互の結束を固くして他に對するの必要を痛感し、策士等はウイルソンをして國際聯盟を提唱實現せしめた。(次で九國條約、不戰條約等々を以て日本を制肘した。)この聯盟が、如何に正義にもせよ日本を強大ならしむるその主張を容れないのは當然である。何となれば聯盟結成の眞目的は日本を抑壓するにあるのだからである。

日支紛争に關する日本と聯盟の正面衝突は詮する所日本と白人との衝突であり、日本對世界戦の一階梯である。

國際條規の尊重は正義一途の日本のもとより望む所であるが、我を捕へ我を亡ほさんとして投げかけられた捕縄を、神妙に我身に捲きつけるに等しい馬鹿な眞似は止めて、他の部に於ても述べた如く一切自由の立場に立つて正義貫徹、皇道推廣の道を講じ、天祖の御神勅を全世界に實行するの覺悟がなくてはならない。

須らく宇宙の外に身を置き、全地上を下瞰したるが如き浩然悠大なる心境に立つて世界の經綸を一から立替へ立直すべきである。

神示

大正五、舊七、二三

露國へ上りてをる先祖の惡神の精神は、茲までの惡を働く極惡の性來の靈魂なれど、末代の企み(註 世界を末代我物とせんとする計謀)を致して居る事は天地の先祖がもう許さんぞよ。茲までは極惡神の思ふやうに來たなれど、この先の末代の仕組居る事はもう時節が許さんから、全部水の泡となるぞよ。

この先の戦ひの經綸もエライ企謀をいたしてをるなれど、日本にも一寸の經綸がしてあるから、日本の國では地面が狭いから、海外の國で、日本は神力なり、外國は學力なりの力較べをいたして、日本の先祖の神力を見せてやるぞよ。

ロシアのロマノフ王朝が世界併呑の野望を逞しうし、之に代つた赤露のソビエツト政權が世



界共產革命の成功によつて天下を呑まんと企圖してゐるのは、皆神示の惡神の守護によるのであつて、恰も日本が正神の守護によつて古來皇道推廣の神政世界を理想とするのと、正反對である。

「此の先の戦ひの經綸もエライ企謀を致して居る」とあるのは、思想戦や化學戦(毒瓦斯戦)、日本空襲、支那の赤化、機械化兵團の擴張等を、大正五年から既に神が豫告されたものと拜察する。露滿國境に集中せられてゐる赤露軍は十萬を降らず、その裝備は二等より一等に改められ戦車、飛行機等を増加されてゐる。

而して神示の末節は日本が將來大陸に於て曠古の大戦を爲すべき事を示されてゐる。

滿蒙に國防の第一線を置く事は飛行機の進歩せる今日日本として當然である。滿洲事變は一面に於てこの止むに止まれぬ日本の國防、即ち廣義の自衛權の發動であつて、右の神示にも副つてゐる譯である。

○

左の神示によつて更に右の説を裏書する事とする。

神示

大正六、一二、一

(前略)……日清間の戦ひは、演劇に譬へて一番叟、日露戦争が二番叟、三番叟は此度の、五年に亘りし世界戦……(中略)……いよ、初段と相成れば、西伯利亞線を花道と、定めて攻め来る曲津神、力の限り手を盡し、工夫を凝らし神國を、併呑せんと寄せ來り、天の鳥船天を蔽ひ、東の空に舞ひ狂ひ、茲に二段目幕が開く。……(後略)

此の神示によつても、日本はロシアの空襲を絶無ならしむる方策を樹て、戦時に於ては遠くバイカル以西に彼等を壓迫せねばならない。

尙ロシアの空軍は未だ世界の精銳とはいへないが、世界一腹の一事に想ひ到る時、英、佛、獨等の支援ある事を覺悟し、更に露國の第二次五ヶ年計畫による空軍施設の進境を思ひ、西伯利亞の航空路の完備等を計算から漏らしてはならない。



又ペーリング海峡、アラスカ方面よりする米國機の西伯利亞進出も多少考慮に入れる必要があるであらう。

最後に日露不可侵條約に就て一言する。國體に於て政體に於て將た又思想に於て全く正反對の日本と赤露が、衷心和解する事は至難である。而も、日本も世界の道義的統一を志し、彼も共產革命による世界の統一を策してゐるのであるから一度は必ず衝突するの覺悟を要する。

日本はもとより事を好むものではない。彼にして禮を厚うし辭を低うし修交を求め來るを一蹴するにも及ぶまいが、宜しく腹のドン底を定めて之に對するを要する。

神示は儼として彼の陰謀を指摘し改心歸順を迫つてゐられる。彼若し初志を翻せば永遠の友たるべきも、現に問題となれる不可侵條約は彼の實力の整ふ迄の保護色なるべく、決して彼の術策に陥つてはならない。

# 一〇日支問題

## 歐洲戦後の列強の動向

他の部分にもこの問題を示した神示に就て紹介したが、こゝには更に二三を記述することとし終りに若干の意見を添へる事としやう。

これ等の神示を信する皇道大本の人々は、日支紛争に對する國際聯盟に於て、佛國や英國の親日を報道する新聞記事には決して耳を借さなかつたのであるが、結果は果して神示の如く、彼等は相携へて日本に反噬した。

若し彼等が親日の口吻を洩らす時あらば、彼等は何物かを失ふ事を恐れ、或は何物かを得んと望んでゐる時に限ると断すれば間違ひはない。

## 神示

大正六、舊二、九



世界の今度の大戰争(註 歐洲大戰)は世界中の人民の改心の爲であるぞよ。萬劫末代、戦はつまらんものであるといふことを世界中の人民に覺らせる爲の戦であるぞよ。

まだく、是では改心が出来ずに、日本の國を奪る考へを外國の惡神が致してをるぞよ。

日本は神國、神の誠の守護いたしてある國であるから、何程外國に人民が澤山ありたとて、智慧や學がありたとて、神國には逆もかなはん仕組が世の元からいたしてあるから、九分九厘で手の掌をかへして萬劫末代つぶれぬ日本の神の王で、三千世界を丸めて、人民を安心させ、松の世、仁愛の世、神世といたして天地に御目にかける時節が近うなりたぞよ。

神示

大正六、一一、三

れん合の國の軍は強くとも、心は割れて四つ五つ、いつか勝負の果も無く、力は既にイギリス、長に伊太利て雨リカの、フランス跡に地固めの、望みもつきてカイゼルの、甲斐なき終り世の終り、金も兵糧も盡き果て、互に臍を噛みながら(註 以上は歐洲大戰の經過を示す。以下歐洲戦後の歐米諸國の動向を示し日本の覺悟を促す)猶ほ懲つまに向きを替へ、良き支那物を奪はんと、命限りに寄せ来る。其時こそは面白き、茲に仁義の神の國、豊葦原の足に掛け、蹴え放ららかし息の根を絶ちて惡魔を絶滅し、世界一つに統べ守り、祭政一致の神政を、天地と共に樂しまん。

神示

大正八、六、四

今の日本の人民は、何も知らずに氣樂な事を思ふて居るが、世界の大戦争が平和に治まりたと思ふたら料簡が違ふぞよ。日本は是から確り致さぬと、國が潰れて了



ふぞよ。

日本の國は此神の經綸が太古から致して無かりたら、一轉に占領られて了ふ所なれど、日本には國常立尊が神力のある生神を眷族に使ふて、水も漏らさぬ深い仕組が致してあるから、何程世の本からの惡神が、エベス大國や佛や豚兒を使ふて。(註エは英國、ベは米國、スはスラブ、佛はフランス、豚兒は支那を意味する) 神國を、色々の手段を廻らして攻めて來ても、良の金神(國常立尊)の守護致す限り、坤の金神(豐雲野尊)の宿りた肉體の續く限りは、九分九厘までトン／＼拍子にやらして置いて、一厘の所で手の掌を覆して日本へ手柄を致させて、世界中の人民を助けて眼を覺まして遣る仕組であるから、日本の人民なら、一日も早く改心致して、神の軍人となり、神政成就の御用に立つやうに致さねば、折角日本人と生れさせて貰うた效能が無いではないか。

右の神示は三つとも歐洲戦後列強がグルになつて日本に攻めて來る事と、最後に日本が神力

によつて世界を統一する事を宣示されたものである。

第二の神示には列強の支那への進出が示され、第三の神示には支那とグルになつて日本を占領せんとする大國の名稱までも示されてゐる。

### 支那の分割と國際管理

英國が阿片戦争に全勝して香港を掠奪して以來歐洲列強は我勝ちにナイフを以て支那のカステラを切り取らんとし、更に長髮賊の亂は之に好機を與へて彼等の野望を容易に達成せしむるに至つた。即ち揚子江沿岸を英に、安南を佛に、黒龍江北を露に、山東を獨に、西藏は英に……列國の勢力圏は劃定さるゝに至つた。

彼等列強の心理を今英國ノーレット將軍の言明によつて略説しやう。

「支那の弱點は其政府の財政窮迫にあり。而して其の債權者たる露獨佛の三國はいづれも禍心を包蔵する野心國なるが故に、若し誤つて負債不拂の如きことあらば、即ち是れ支那分割の時機なり。(中略)



若し一度支那にして瓦解し、列強各自、其の利益の爲に活動を開始するに當りては、我が英國たるもの、豈拱手黙視するに忍びんや。果して其の時機に際せば我が英國は露佛及び日本並に他の近隣諸邦と協同して、其の捕獲物の分配に與らざる可からず。分配の主要は揚子江の兩岸、廣東、雲南は之を英國に保持すべく、其他南支は佛國に屬すべし、而して北方は露國と日本とに分割するを當然とす。

と。正義と平和を愛好する泰西の紳士國たる英國の心境は、米佛獨露と概ね等しかるべく、支那の分割を以て當然となし、有色人種を以て白人の奴隷視する心理の露骨なる、全く驚くに堪へたるものがある。

リットン調査團が滿洲を國際憲兵をして治めしめんとし、又國際的協力によつて支那の内部的改造を期してゐるのは、正しく支那國際管理の野望を現し來つたもので、神示の明かなる實現といふべきである。

外には此の如き仇敵の隙を窺ふあるに、内には恐るべき賣國の政治家があつた。彼の支那革

命の神様たる孫逸仙は千九百二十三年春、米國公使と廣東に於て會見し「今後五年間列國で支那の共同管理の責を取つて呉れまいかといふことを、ワシントン政府から倫敦、パリ、羅馬、柏林其他小國政府に提案して頂き度い」と懇望してゐる。右はニューヨーク・タイムス記者ハーレット・アベンド氏の著「列國支那共同管理論」に記述する所である。

此の二つの事實より察するも、日本の正義と實力がなかつたならば支那の分割或は共同管理は既に實現してゐたであらう。

彼等は此の野心を達する爲には虎狼の心を天女の假面に包んで支那の歡心を買ひ、支那の善隣保護者にして列強の監視者たる日本を諷解せしめ、兩者を相争はしめて遂に日本を倒さんと企んでゐる譯である。

今度の日支紛争に對する英、米、佛の態度は右の神示を基礎として觀察すれば一目瞭然である。又支那の日本に對する挑戰亦これによつて眞因を窺ふ事が出来る。

日本は如何に善意を以てし正義を貫かんとするも、列國並に支那の心境此の如しとすれば、



暫く彼等と絶ち、天祐神助と、自らの力とを杖とし柱として悲壯の覺悟を極め、腐敗せる國際關係を是正すべく天下の爲に起たねばならぬ。それが天孫民族の眞骨頂であるのだ。

右の神示を再讀して覺悟を深め、天祖大神に對して不惜身命の奉公を誓はれん事を祈る。

○ 支那は由來中華を以て自ら高く持し、他國を以て夷となし、夷を以て夷を制し、遠きに交つて近きを攻むるを常套手段として、自らの力を養ふ事なく國權の維持につとめてゐる。即ち以夷制夷、遠交近攻は彼の傳統的亡國の策である。又巨頭連の排日抗日の如きも、對内的人氣取りに過ぎないものが多い。

實力のみを恐るゝ支那に對しては、日本が實力を以て之に臨む事は改過遷善の期を早むる一手段ではあるが、更に之と共に誠を推し、彼等をして日本と提携する事が支那任立の唯一の方策であり、中華平安の無二の國策である事を、腹のドン底から覺らしめる爲最大の努力を惜んではならない。

# 一一日米問題

神示

明治三六、九、一〇

ろこく計りか亞米利加迄が、末に日本を奪る企畫、金と便利に任せつゝ。

○ にしに亞米利加(註 西半球の意、いろは歌なるが故にかく言へるもの)北には露西亞、前と後に敵ひかえ、四方海なる日本國。

右は日露戰爭前の神示であるが、早くも露國のみならず米國の日本に對する野心を摘發されてゐる。

神示

大正八、舊四、二三

一一日米問題

七七



二つに入(註) ヒビのこと)の入りかけた、此品物を(註) 支那の事)方々から、我々の自由にせむものと、神の敏き目も顧みず、エベス大國大盜梁、佛さんまで捻鉢巻の大車輪、九分にイタリて逃げ出せば(註) ベルサイユ會議でイタリー代表の引揚のこと) 西の御寺の和尚(註) 帝國代表西園寺公)まで、此の場を引くとの權幕に、コリヤ慇懃じや堂しやうと、エベスと佛が一思案、一時和尚の言前を、立て、やろかい又後は、後の考へ合點か、合點々々と領き合ひ、チント談しは濟んだなれど(註) 青島の還附問題のこと)葉マキノ(註) 牧野全權)煙草の一服休み(註) 以上ベルサイユ會議の内幕を示す、以下太平洋問題即ち日米關係を示す)舞臺變れば太平の、夢を醒ました海若の、その驚きや如何ばかり(註) 日米の海戦を諷す)トノノ拍子の悪神も、鯨に鯨の戦ひに、果敢なき最後を酉の年、猛惡無道の獅子王も、身中の小さき蟲に仕さるゝ、昔の譬へも目のあたり、日の出の神の國の柱は永遠に、四方の國々言向けて、名も高砂の千代の松、松の緑の色深く、神の恵を仰ぐなり。

パリの平和會議に際し極東に野望を有する米國の大統領ウイルソンが支那の肩を持ち、日本の主張を押へて青島を直接獨逸より支那に還附せしめんとしたのであるが、日本は飽く迄獨逸より山東に於ける權利を譲らしめ、然る後支那に還附する事を主張し之を貫徹した。

其後世界の大問題は神示の如く太平洋に移つた。即ち加州に於ける排日法案の通過、日本の八々艦隊案の議會通過(大正一〇)華府海軍々縮會議、支那に關する九國條約、ヤップ島問題(大正一一)石井ランシング覺書廢棄(大正一二)米國排日移民法案議會通過(大正一三)壽府海軍々縮會議(昭和二)不戰條約(昭和三)倫敦軍縮會議(昭和五)と矢繼早に太平洋並に之をめぐる國々の安危浮沈に關する大問題が續出してゐる。神示の明確なる豫告には全く感歎の外はない。滿洲事變、滿洲國承認問題を焦點として、太平洋兩岸の世界の最大二強國は弓を滿月に引絞つて相對峙し、米國は屢日本に對し辛辣なる干涉をなすのみか、對日武器輸出禁止を以て日本を苦しめんとし、太平洋艦隊を太平洋に集中し、布哇附近に海軍大演習を繰返し、日本と一朝事ある際、彼として最も有利なる身構へをなしてゐる。即ち日米海戦に於て米國海軍が布哇に完全に集中し得たならば、それは初期作戰の成功であ



るのだ。日本はかねて太西、太平兩洋艦隊の布哇集中以前に於て相當の損害を與へんと明してゐるからである。

更に英國は既に國際聯盟に於て反日態度を明かにしたから、東洋並に濠洲に於ける利權を日本の前に確保するにはどうしても米國と握手するを要する。加ふるに戰債問題と日本の對支強硬態度が英米親善に拍車をかけた。

若し英米の聯合艦隊を向ふに廻せば全く鯨に鯨の戦ひである。大きな英米艦隊の鯨は小さい日本艦隊の鯨に果敢なくも撃破されるといふ痛快なる豫告である。

神示

大正六、一一、一

東雲の空に輝く天津日の、豊榮昇る神の國、四方に周らす和田の原、外國軍の攻め難き、神の造りし細矛、千足の國と稱へしは昔の夢となりにけり。今の世界の國々は、御國に勝りて軍器を、海の底にも大空も、地上地中の選みなく、備へ足らばし間配りつ、やがては降らす雨利加の(註) アメリカと雨とを掛けていふ(註) 數より多き

迦具槌(註) 爆彈)に、打たれ砕かれ血の川の、憂瀬を渡る國民の、行く末深く憐みて、明治の二十五年より、露の玉散る及(註) 日露戰のこと)にも、向ひて勝を取らせつ、猶外國の襲來を、戒め諭し様々と、神の出口の口開き、詔らせ給へど常暗の、心の空の仇曇り磯吹く風と聞流し、今の今まで馬の耳、風吹く如き人心、……

右は神が日本に對し敵國襲來を戒め給ふ御焦慮の切々たる御神言である。殊に米國空軍の襲來が明瞭に示されてゐる。

其他にも日米戰爭を示す警告は至る所に散見されるのである。吾等は嘗て之によつて日米戰爭來を叫んだのであるが、國際親善を害するものとして彈壓を加へられた。當時は尙日米關係も今日の如く急迫して居らず、穩健なる外交が行はれてゐた最中であつたから止むを得ない。最早滿洲國承認を轉機として、外交的辭令をふり廻してばかり居られぬ時代となつて來た。既に日米戰爭が單なる時間の問題である事には反對者は一人もあるまいと思ふ。

日米問題は事頗る重大であるが他の部に多く現れてゐるから、こゝには簡單に止めて置く。



# 一一一 日本對世界大戰

神示

大正八、四、一三

銀貨銅貨が凝り固まりて、大きな一箇の丸となり、金貨の山へ攻め寄せて來るなれど、元から貴き光のある金は、容積少くも、終りには、一の寶と勝ち誇るぞよ。

極めて簡明に而も抽象的に日本對世界戰の輪廓とその歸趨を示された神言である。

神示

大正四、四、九

(一) 一度の改心(註 外尊内卑の迷夢から眞正の日本魂に立歸る事)は辛いから、明治二十五年から今ぢや早ぢやと申して急き込みて知らした神言が、何も一度に世界中から迫りて來て、一度に開く梅の花、筆先通りに世界がなりて來るから、皆腹

帯を確かり締て、腹の中に腸を据ゑてをらんと、一旦は筆先に出してをる通りが出て來ると、世界中の大戦となるぞよ。

(二) だら／＼として居りたら、何方の國も潰れるぞよ。向ふの國は氣が長いから、向ふの國の申すやうにして居りたら、日本の國がさつぱり立たんやうになるのを、向ふの國は狙うてをるのぢやぞよ。

(三) 日本の國は世の根本の、肉體の其儘で、末代ビクリとも致さずをる、天と地との根本の、天の御先祖様の御靈統と、地の世界の先祖の御靈統とが、數は少ないなれど、根本の御靈統の靈魂が、末代微驅りとも致さん大和魂の御種であるから數は要らんぞよ。數が何程ありたとて却りて邪魔になる。今の御魂の性來は、日本の今度の二度目の世の立替は、普通の世に出て居れる守護神は、外國所屬であるから、分りは致さんぞよ。

日本の國は國も小さいから、人民も少いが、皆外國の方が好いと言ふやうな守護神、肉體を力にして居りたら、途中で向ふへ附いて了ふから、間に合ふ守護神を使



うて埒良う致すぞよ。

(四)向ふの申す事を眞實に致して、茲まで自由に爲られて置いて、まだ向ふの申すやうにして居りたら、日本の國を好き候にしられるから、天地の先祖の仕組通りを始めるから、此方に皆心魂を任して了ふたら良いのだぞよ。

(五)向ふの申す事を眞實にして居りたら、日本の國は憐い事に爲られるぞよ。日本の國は太元の活神が仕組をしてをるから、此方の申すやうに致せば、樂に峠を越せるなれど、此方を敵對うて何なりとして見よれ、怖い目に逢ふぞよ。

(一)は日本對世界大戰の豫告である。

(二)は外國の作戦を示されてゐる。

即ち日本人を北米から追ひ出し(排日移民法案)、濠洲から驅逐し(白人濠洲主義)、狭い日本の島國に追ひ込め、更に支那を煽て、唯一の生命線たる滿蒙を日本から絶ち切り、經濟、國防資源の上で日本を窒息せしめんと計つてゐる。

次には軍縮會議で日本唯一の護身用具たる軍備を縮少せしめ、最後に彼等の聯合軍の格段の優勢を以て壓倒的に屈伏せしめんと計つてゐる。

更に思想上ロシアの赤化思想、米國のデモクラシー等を注ぎ込み、又物質萬能科學萬能の迷信を植つけ、先づ神の觀念と皇道の大精神を抹殺せんとしてゐる。若し根こそぎ神の觀念を日本から除き得れば、日本皇室の尊嚴も國體の精華も一片の空文となり、世界無比の鞏固和親せる日本の團結は土崩瓦解して了ふ。

更に世界の金權を握れるユダヤ民族は、日本の弱點に乗じて經濟界を動搖せしめ思想的日本の悪化に油を注ぐ。

此の如くにして日本は遂に彼等に倒されるのである。「日本の國がさつぱり立たんやうになるのを向ふの國は狙うてをる」との神示がそれである。

(三)今度の日本對世界の大戦には生粹の日本魂の持主でなければ役に立たない。世間並の成功者や、外國の方がよいといつて、政治、宗教、教育、法律、經濟、風俗、習慣等一切、歐米カブレの連中は外國所屬だと宣言されてゐる。



自力更生の最大眼目はどうしても日本魂の更生に重點をおかねばならない。

(四) (五)は先方の言ふ事を眞に受けて、言ひなり放題になつて居れば、ひどい目に遭はされるのが見え透いてゐるから、天地の先祖の神の仕組通りに、即ち日本独自の神策を積極的に決行するから、神を信頼せよとの宣示である。

既に滿洲事變をキツカケに日本の自主的經綸が始まつた事を大いに喜ぶ。しかし神示の如く九分九厘と一厘との戦ひであるから、相當苦辛も苦戦もある。日本人お互は最後の腹を決めてかゝらなくてはならない。速戦即決の必要もこの神示の中に包含されてゐる。

○

日本國民は更に左の神示に對して一段と覺悟を固めねばならない。

神示

明治三六、舊七、一三

日本は神國で結構な國じやといふ事は判りて居れど、何を申しても國が小さいので一呑みにして居るから、日本の人民の今の精神では、戦争が始まりたら日本魂

が些とも無いからうろたへて了ふぞよ。

是から段々と世が迫りて来て、世界中の大戦争となりて窮極まで行くと、向ふの國が一つになりて皆攻めて来た折には、兎ても敵はんといふ人民が、神から見ると九分までであるが、日本はモウ敵はんと申す處で、日本魂の牛神の本の性來を出して見せてやると、(註 神力の發動の事)日本魂は胸に詰まりて呑めぬから……  
今度外國が強いと見たら皆外國へついて了ふから、ソコで此の綾部の大本に仕組みてある事を、日本の人民が能く腹へ入れて、御用致さす身魂が二三出来たら、そこで昔からの仕組みの神が現れて、七王も八王もある國を、誠一つの日本の神力で往生致さして、世界中の安心が出来るやうに致して、昔の元の神代に復すぞよ。

右は明治三十六年即ち日露戦争前の神示ではあるが、内容は此度の世界大戦の事が主として述べられてゐる。

前の神示の第三節に外國所屬といふ事が示されて居り、この神示には「外國が強いと見たら



皆外國について了ふ」と迄示されてゐる。

最近阪神地方で活動する大本の宣傳使からの情報であるが、キリスト教では

「國際聯盟から制裁を受けて日本は遂に戦争に敗るから、今のうちにキリスト教の信徒になつて置くが得である」

と言つて教勢の擴張を計つてゐるものがあるといふ。願はくはかゝる話は誤報であつて欲しい。若しそれが眞實であるとすれば、彼等は日本人にして全く外國所屬である。日本の最後の決意に際しては埒よく處分すべきものであると思ふ。

之に全く反對の内田良平氏の實話を紹介しやう。

「自分は各地を廻つて、屢講演をする。談たまく日本對世界戦争の必然的到來に及ぶと、青年達は悉く顔色を失つて了ふ。只大本の信者のみは平然として「神示にハッキリと出てゐますから必然に到來するでせう」と答へる。その度胸のよいのには敬服する」

大本信者の動ぜざる所以は無数の神示によつてその必ず然るべきを確信し、本来の日本魂を神書天啓によつて研き上げてゐるからである。右の神示によつて皇道大本の片鱗を伺ふ事が

出來ると信ずる。

願はく同胞各位は、國際法理の繁文褥禮の詮索は第二とし、速かに此の大決心を築き上げて舉國一致難局に處して頂き度い。必ずや神助天佑至つて最後の勝利を獲得する事は明々白々である。形體的國防の基として先づ精神的國防の礎を固めて頂き度い。この章の結論として更に左の一節を添へる事とする。

神示

大正七、舊正、一三

日本で居りて、日本を奪りに來るのに、外國方になりて、今に頑張りて居る守護神が、氣の毒なものであるぞよ。

共産黨の如き、無神論者の如き、歐米心酔者の如き、敵國に軍用資源を提供するもの、如き、日本の最後の決意の前には清算せらるべき氣の毒な人々であらう。



# 一三 經濟問題

## 附 經濟封鎖

今や金銀爲本物質萬能の政策は行詰まりを來し、一方金より物への聲を聞くやうになつて來た。この際左の神示によつてお互は大いに覺る所がなくてはならない。

殊にフリーメーション結社の如く、世界の富の七八割を獨占し、黄金のたづなをとつて列強に君臨し、更に暴利を得んとして時に戦争をさへ起し、或は財界の變動を捲き起して萬國と萬民を踊らしむるもの、存在に着目し、彼等の捕虜とならないやう獨自の經濟組織を立てる事は超非常時日本の急務であると信ずる。

### 神 示

明治二十五年

現今は金銀爲本で治まるやうに思つて居るが、金銀爲本は滅亡の本であるぞよ。

……お土から上りたものを大切にいたさねば、貨幣では世が治まらんぞよ。

明治三一、舊五、五

一も金銀、二も金銀と申して金銀で無けら世が治まらん、人民は生命が保てんやうに取違ひ致し……

明治二六、舊七、一二

金銀を餘り大切に致すと世は何時まで治まらんから、良の金神（註 國常立尊の又の御名）の天晴守護になりたら、天産物自給其國々の物で生活る様に致して、天地へ御目に掛ける仕組が致してあるぞよ。

フリーメーション結社は其の最高幹部の會合に於て「金貨本位は國家の爲不幸の一因たる事は諸君の了解せる所である」と冒頭して

「如何となれば吾人は出来る限り金を融通界から取上げたから、金貨は紙幣の消費を満たすに足らないのだ。



財政破綻には金融界から貨幣を取上げて了ふのだ。是は吾人が各國に仕組んだものだ。國家から金を引上げた巨額の資本が溢滞した。

堂々たる國家が吾人に國債を仰がなければならぬ破目になつた。此等の國債は、利子の支拂で十分國家を苦しめ、残る元金で其國家自ら奴隷になる。」

と豪語したのはトツクの昔の事である。實際彼等がウンと云はねば戦争一つさへ出来ない世界の現状である。

日本は自主的に國策を遂行する上に於て、獨自の經濟を考案し、彼等の術策から自由の境地に逸脱せねばならない。

貨幣は單なる機關であり、道具であつて、決して食料、衣服、住居ではない。軍艦、火炮、彈丸でもなく、飛行機、兵員でもない。更に鐵、重油、石炭でもないのである。一枚の金貨はなくとも、これらの物資を準備すれば、即ち天產自給の道を講ずれば、もとより經濟封鎖は恐るゝに足らない。寧ろ彼等をして不利を招かしむるのみである。

國內に於ては何等貨幣の必要はなく、紙幣を 天皇の御稜威によつて流通せしむればそれで

十分事は足りるのである。

殊に食糧問題は重要である。腹が空つては戦争は出来ない。神は明治二十五年から今日あるを豫知して頻りに警告を發せられた。次の神示は經濟封鎖を豫想された一句である。と拜察する殊に大切な土地を野球のグラウンドや、クリケット、ゴルフ、リンクなどに遊ばして置く事は超非常時日本の最大禁物である。

神示

明治三六、舊一一、九

結構な田地に木苗を植ゑたり、色々の花の苗を造りたり、大切な土地を要らぬこととに使うたり致して、人民の肝腎の命の親の米、麥、豆、粟を何とも思はず、米や豆や麥は何程でも外國から買へると申して居るが、何處までもさうは行かんことがあるから、猫のゐる場にも五穀を植ゑ付けねばならぬ様になりて來るぞよ。

神示

大正六、舊一一、一三三



日本の國は一日増しに押しつまりて来て、食物はだんく逼迫になるなり、菜の葉一枚でも大切な事に今になりて来るぞよ。

何程金を貯めて喜んで居りても、正勝の時には金銀では生命がつかないぞよ。百萬圓の金よりも、一握りのお米の方が大切な世が廻りて来て、明治二十五年から毎度筆先で知らしてあるやうに田地に植込みて喜びて居りた桑までも掘り起さなならん事に成りて来るが、人民と申すものは近愆で、近眼で、眞實の神の申す事は判らんぞよ。

右は經濟封鎖の如き超非常時日本を見越しての御警告である。まさかの時に百萬圓の金よりも一握りの米の方が貴い事は關東大震災に於て經驗を経てゐるし、ドイツではマークの暴落によつて現實にこの悲哀を見せつけられた事である。

經濟封鎖となれば根本的に生糸問題も解決せねばなるまい。

神示

大正七、舊正、一三

これから先に何事が出来致しても、驕がす狼狽へずに、斯うなりたら彼する、彼なりたら斯うするといふ確固不拔な經綸が分りてをらすに、行き放題のヤリカンボウでは、トンと行き詰まりた折には人民が皆飢餓に及ぶ事が出てくるぞよ。畜生國のやうに終には人民を餌食にせんならんやうな事が出来やうも知れんが、何程つまりて來ても日本の國は友喰といふやうな事は出来んぞよ。

本は神國の靈主體であるから、土壤を大切にいたして一畝でも草を生やして荒す事はならんといふ事が筆先で初發から知らしてあるぞよ。お土から出來たものであれば、ドンナ物を喰うても辛抱が出来るから、大根の株でも尻尾でも赤葉でも常から粗末にするでないぞよと申して毎度氣を付けてあるぞよ。平生から心得の良い者は、最後の時によく判るぞよ。お土を大切に思ふ人は神が天地からいつも見届けであるぞよ。天地の神から眞の神力を戴いてをる人はまさかの時にも餘り困りは致



さぬぞよ。

右の神示を裏書する友喰ひは、ロシア等に於て既に實現した。

單に物質を奪ふといふだけでなく、下駄の齒裏に着いた土の一塊、米一粒さへ人間の力だけでは絶對に出来ないものである、凡ては創造の神の恩恵であるといふ信仰から天物を大切に感謝生活を送る事が必要である。此の如くする事により經濟の安定は必ず副産物として得られるのである。

世界一腹が實現の曉には經濟封鎖も武力干渉も實行されるものと覺悟し眞劍に對策を講ずる必要がある。油断は大敵である。

説を爲すもの多くはいふ「世界の經濟的關係は複雑微妙であつて封鎖をする國も受ける國も共に多大の不利を忍ばねばならず、又之を完全に行ふには必ず武力の行使を要する。此の如き大なる犠牲を拂つて封鎖を行ふ筈はなく、若し行ふとしても日本は武力を以て之を排除するから大丈夫である」と。

しかし神示は常に人智の外に超越し、人智未達の奥處を照破される。神の警告によつて察すれば、經濟封鎖も武力行使も必ず實現する事を豫期しなければならぬ。

最後の世界の爭覇戦である以上、中途に止まる事は出来ない。日本に武力あれば彼に聯合軍の大兵力がある。「世界一腹」は神示の屢繰返さるゝ所である。必ず彼等も亦最後の腹を決めて詰めるものと覺悟しなければならぬ。

英米の聯合艦隊が尙日本に對抗出来ないからとか、彼等は國內の經濟難局の打開に熱中してゐるから經濟封鎖はやれないとか、たかをくつて油断をしてはならない。積極的に之が排除の方法を講じ、味方とすべき國は先鞭をつけて味方とし、確保すべき資源の所在は之を確保し「サア来い」といふ身構へをして、彼等の外柔内剛の術策に乗せられてはならない。

神示

大正七、一二、二五

ナヅナ七草の用意を早くいたして置かぬと、今に唐土の鳥が渡りて来るぞよ。唐土の鳥は羽が強うて口嘴が長く鋭いぞよ。脚も長いし數も澤山にあるぞよ。日本の



鳥は餘程しつかりと神力がないと、天空から蹴り落とされる様なことが出来致すぞよ。

右は一面飛行機襲來の警告である。古來正月の七日に『唐土の鳥が云々』の歌で囃し立てながら七草を刻んで粥にして食へる行事が残つてゐるが、これは飛行機(唐土の鳥)の襲來を警告する神の默示であつた。

唐土の鳥と日本の鳥の比較は頗る面白い。羽が強いとか足が長いといふのは速力が早く航続距離が長い事であり、嘴が長く鋭いといふのは、飛行機に積んだ機關銃や輕砲の射程が長く精銳でもある事を示されてゐる。實際戦闘機などでも日本のは機關銃が二銃であるが、米國、英國などには六銃を裝備したのも出来てゐる。

話が稍横へ外れたが、日本に外國の飛行機が襲來するからナツナ七草の用意をして置けといふのが神示の本旨である。即ち屈強盛りのもものは戦場に出る。女も後方勤務に立つ。敵機が襲來する程であるから内地も危急の時十分穀物は作れない。經濟封鎖も多大の影響を與へる。

そこで満足に米の飯などは食へない事になる。野菜も十分には穫れない。そこらにある野生の草を刻み込んだ粥をすゝつても、神洲の國是貫徹の爲に奮闘せねばならないとの教訓である。

因に七草を食すれば毒瓦斯に對する抵抗力を増すとは神示の一節である。最近大角海相が「粥をすゝつても此難局に當れ」と海軍將士を激勵されたのは大いに味ふべき言である。

神示

大正元、舊一〇、五

此の世(註) 愈の時節の意)が來た折には世界中の困難となりて、何方の國にも金銀の要るのは程知れず、金融はだん／＼逼迫になるし、何う爲様もなきやうに、一旦世界中は火の消えたやうになるから、斯うなりた折には、元の其儘のまことの牛神が現はれて、二度目の世の建替を致さねばならんから、此方が世に落されたの(註) 國常立尊の隱退)も御都合のことであるぞよ。



神示の國防

一〇〇

右は金融の逼迫を示された神示である。而して神示の經濟法によつて世界の經濟が改善される事を示された神言である。

○  
左の神示は世界金融の中府である英國の經濟的行詰まりの結果、同國の銀行に預けたる金は決して宛にはならない事を豫告されたものである。而もそれが日本の好景氣の頂點に宣言されてゐる事に注意せねばならない。

神示

大正六、一一、三

○  
ろんどのカラの都に預けたる、金山姫の御寶は、何時還り坐す術を無み、御姿さへも瑞德國、豐草原の中國の、力を削る曲津靈は、英米西大國西の海、底の藻屑と鳴る神に、臍を奪られし姿なり。

大正八、一、二

○  
日本も金が殖えたと申して安心致してをるなれど、此金は滅多に日本の役には立

○  
たんから、向うの國に預けてある金は當にならぬぞよ。早速の間に會ひは致さんぞよ。

○  
外國人に自由自在に致されてをりても、まだ氣が附かぬ人民が八分あるから可哀相なものであるぞよ。

神示

明治三一、一一、五

○  
日本の脚場を餘程しつかり致して置かんと、兵糧が盡きるやうな事がありてはならんから、豊作を取らしてかゝるぞよ。

○  
こゝにも神の決意と用意の周到さが窺はれる。



# 一四 國家總動員

昔は軍隊を撃破すれば戦争の目的を達する事が出来たが、普佛戦争にはガンベッタが集めた二百五十萬の義勇軍の出現を見るに至り、單に野戦軍を破つただけでは戦争の目的を達する事が不可能となつた。

越えて歐洲大戰に於ては、どこからが軍隊の初まりで、どこ迄が平和の市民であるか、分らない程軍民融合の實を擧げ、國民戦といふよりも更に歩を進めて國力戦といふべき形を呈した之によつて之を見れば、將來の戦争に於ては、勝利を得る爲にはあらゆる有形無形の全知全能を傾倒し、一國の保有する凡百の人的、物的資源の全力を合理的に統合して、その國力の最大限度を發揮し、飽く迄敵と勝敗を争はねばならない。此の如く人的物的の全資源を統合して國家最大の能力を發揮する方法を國家總動員と名づけるのである。

○

來るべき日本對世界の大戰に對し、神は左の如く國家總動員の型容を豫告されてゐる。そしてその一は物的資源、其二は人的資源の總動員である。

## 神 示

大正六、一一、三

おちこちの寺の金佛金道具、釣鐘までも鑄潰して、御國を守る海陸の、軍の備へに充つる世は、今眼のあたり迫り來て、多具理に成ります金山の、彦の命(註)古事記の語を引用す。金屬萬能の時代相を示す)の御代と化り、下國民の持物も、金氣の物は金火鉢、西洋釘の折れまでも、御國を守る物の具と、造り代へても足らぬまで、迫り來るこそ歎てけれ。

## 神 示

大正六、一一、三

くに舉り上は五十路の老人より、下は三五の若者が、男、女の別も無く、坊主も耶蘇(註) 牧師やクリスチャン)も囚人も、戦争の庭に立つ時の、巡りくるまの遠か

一四 國家總動員

1011



らず、遠津御神の造らし、御國を守る兵と、日本心を振り起し、伊都の雄猛び踏み健び、嚴のころびを起しつ、海往かば水潜しかばね山往かば、草生す屍大君の御爲に死なむ徒に、閑には死なじ一歩も、顧みせじと彌進み、いや迫りつ、山の尾に、追ひ伏せ散らし川の瀬に、追ひ拂ひつ、仇軍、服従へ和して浦安の、御國を守れ秋津人、現津御神と大八洲、國知食す天皇の、高き恵みに酬へかし、日本島根の神の御子。

今や日本への兵器輸出の禁止が米國の主唱によつて列強の間にやかましく論議されてゐるが遂に經濟封鎖となり、武力干渉、持久戦となれば最初の神示位の事は覺悟せねばならない。中途半端の決心では到底駄目である。

第二の神示では、佛教徒も、基督教徒も、法規に觸れてゐる人々も、本來の日本心を振起し、一切の迷蒙と罪障を拂拭して、護國の任に當らねばならない事が示されてゐる。

宗教家は動もすれば愛や慈悲に拘泥し、殺生禁斷だの、殺す勿れの戒律だのを後生大事に抱

へて動かさず、戦争を罪惡視し、時に不戰論を唱へるものである。

そこになると日本本來の神の教は、右の神示にも示さるゝ如く、本書の最初朝拜の祝詞の部に詳説した如く、大神を主神と仰ぎ、天皇をその表現神と尊び、その勅命は神聖不可犯絶對正義なるを確信し、大神並に大君の御座所たる神州護國の爲めには一死以て奉公の實を擧げ斃れて尙止まず、軍神となつて國家鎮護の重責を全うせん事を期する所、眞に萬邦無比の光輝である。

若し右の如き神教を奉ずるものにして、この一點に不徹底なるものあらば、それは眞正の教徒にあらず、神を偽る偽の教徒であるといはねばならない。

國家總動員に於ては、一面どうしても無形の精神的動員を行ひ、宗教、思想の統一を得なければ、遂に拾收すべからざる事態を招く虞がある。

右の神示に鑑みこの一點を同胞各位が牢記せられ、宗教、思想の更生を促進せられる事が急務である事を附言して置く。



## 一五結 言

國防問題は神業の重大なる一面である。皇道大本の信者殊に宣傳使は神教の宣傳普及によつて同胞の靈魂を救済し、神州神民たるの資格即ち眞正の日本魂の持主として我同胞を更生せしむるの責務あると共に、國防施設を促進充實して、既に神諭に明示さる、如く日本對世界の大戰が間近くなつた今日、一刻も早く皇國國防の完備を期せなくてはならない。

即ち一は以て大神の御神苑たる神州を護り、一は以て世界の大神たる日本天皇の高御座たる日本神國を守り、一は以て我九千萬の同胞、滿洲國三千萬の兄弟をして襲ひ來る惡魔の劫火（敵の兵火）の慘害から免れしめなければならぬ。即ち同胞兄弟の肉體を救はねばならぬ。而も更に之を擴大して全世界の同胞を眞個幸福の境地に救ふ爲には日本が是非とも大戰に勝たねばならないのである。これ國防大運動が仁慈無限なる大神のよさしの大神業の重大なる一面なる所以である。

古來宗教の多くは靈に傾いて輕生重死を説いたが、大本の教は靈體一致である。單に靈のみを救ひ得て體を救ひ得ずんば半分の目的しか達してゐないのである。

故に皇道大本の宣傳使並に信者は、一面神教宣傳に邁進すると共に、一面國防大運動に精進し、以て靈と體との救ひを全うしてこそ、天下に範を垂れる事が出来るのである。

神諭に「あれでならこそといはれるやうに行ひをして下さらぬと神は表に出られぬ」といつた御教示があるが、宗教信者としての立派な行ひをする事だけを意味するのではない。日本人として立派な行ひをする事である。宗教信者によくある習癖は、神示や豫言がドシノと實現すると、ソレ出た、又出たと喜んで高見の見物氣取になつて、却つて世間を蔑視し、自ら高ぶり局外に超然として大衆と共に之が對策に努めない一事である。今一つは惟神中毒にかつて、一も神明、二も神明、神明の御力のみを頼り過ぎて——勿論神明には絶対に信頼せねばならぬが——人事を盡さぬ事である。即ち天を仰いで救世主を待つのみで、之がお迎への備へを怠る事「伊勢の神風」をのみ待ち望んで「國民の力の限り盡す」といふ方面を閉却する事である。勿論最後には神權の發動はあるが、最初からそのみを待つのは誤りである。人間の努力が



そんなに不要ならば、軍備も撤廢し、只神明を祈ればよい。——しかし事實はそうではない——人事を盡し、國民として爲すべき順序を盡して天命を待たねばならない。

彼の有名な泰西の熱狂基督教徒の十字軍は繰返し聖地エルサレム奪還の爲に進軍した。少年十字軍迄も進撃した。しかし神を信する事は厚かつたが、訓練がない。武装が不十分であつた爲めにサラセン人即ちマホメット教徒の爲に多くは長槍に貫かれ、少年の如きは多くは奴隸に賣られてしまつた。

滿洲に於ても支那の某宗教團體は信仰に徹すれば彈丸何するものぞと奮激したが、生きた肉體に彈丸が當れば、ヤハリ現界的の法則によつてドシ／＼と倒れる。傷きもすれば死にもするので一大頓挫を來したのがある。

最後の神權發動の場合には絶大の力が現れるであらう、又世界最高の神の教は他の追隨を許さない神力が伴ふ事はお互の經驗して居る所であるが、この信仰の力、信念を以て物質科學の粹を集めたる文明の利器を活用すれば、一以て十に當るの働きは十分に出来るのである。お互は先づ此の立場を忘れてはならない。

大言壯語して舉國國防運動の圈外に超然とし、日本人ならざるもの、如き態度に出でる宗教家ありとすれば、そは國民の誤解の的となり怨府となり、その信する所の神の實を疑はしめ、名を汚すものとなるであらう。

皇道大本には皇道の宣布により世界を我が大君に悦服せしめる大きな使命がある。國防にも大小廣狭有形無形種々の立場があるのであるから、誰も彼もが、悉く恰も軍人の兒分の如くなれと言ふのではない。

しかし神諭に對する信仰の立場からいつても、今は國防に重點を置いて、日本人としての模範的活動をなす事、即ち精神的國防物質的國防の兩方面を理解し融合して之を國民に普及し、神州神民としての非常時に對する責務を全うせねばならぬ。

皇道大本では精神的國防は概ね神示によつて體得して居る筈であるから之を他に向つて傳へると共に、形體(物質)的國防に對し理解を深め、靈體一致の國防を完成して神州日本より、ひいて世界を救はねばならない。この意味に於てお互は軍事、經濟、外交方面の國防に就て一段の理解を深める事を要する。



これが爲には軍人その他の専門家に就て教示を受け、この人々に對しては大本の有する精神思想方面の國防並に信仰を提供し、相共に胸襟を開き、有無相通じ渾然融合する所に重大なる經綸は行はれ、神州國防の完璧を期する事が出来るのである。徒に門戸を閉ざし高く持するは大いに慎むべきである。

更に國防大運動は、その方法は種々進展すべきも、日本對世界大戰の凱歌を奏する迄は飽くまで邁進すべき最大重要事業である事を銘記せねばならない。

更に訓練、制空、騎乘、武道等、昭我青年會並に大日本武道宣揚會に於て實施しつゝある國防能力の増進に就ては一層徹底的に向上進歩を計られん事を望んで止まない。

將來の戰爭は國力戰である事は既に述べた所であり、神示にも總動員の事が示されてゐる。老人、婦女子、或は兵籍にあらざるの故を以て之を等閑視するは神示に忠なる所以ではない。

國力戰にして一厘と九分九厘の戦ひに、赫赫たる戦勝を勝ち得ざるべからざる吾等神軍の將士は、一刻も早く精神並に肉體の訓練を完成して、危急の國家を擔ふて立たねばならない。

否、大日本帝國の臣民たるの自覺と、大和民族の光輝ある歴史を傳承する同胞は悉く赤裸

々に一心一體となり、此の非常時日本の重大なる機局に當つて萬全なる大運動に出なくてはならぬ。我等皇道大本の信者が誠心誠意、全國民に訴へ以つて、大君のまします聖城、即ち帝國をして安全なる地位に持ち上げ、更に世界に君臨するの基礎確立に邁進せんとする眞意は、既に述ぶる所の奥底に流るゝ熱意によつて伺はるゝ事と信する。希は神君います皇土に住み、皇恩に浴し、大神勅を奉戴する神州の臣民たることを肺腑に刻み、大和魂の眞價を發揚されんことを。

神示

明治三十二年、三月

日本の人民よ、早う身魂を日本魂にみがいて置いて下されよ。此の神のことを何ぞ悪いことでも致す如に思つて居る人民よ、日本の國の權威が判りて居りて悪く申すのか、本來の日本魂に立歸りて見よ、悪く申すところは毛筋も無いのである。逆様によりとれんのは、身魂が曇りて居るから、外國の惡神の容器に成りて居るからであるぞよ。それでは日本の國の天地のまことを開く事は六ヶ敷いぞよ。



昭和八年三月廿三日印刷  
昭和八年三月廿八日發行

神示の國防  
定價金拾五錢

編輯者

京都府龜岡町大字荒塚小字内丸一番地  
昭和青年會本部

發行人

京都府龜岡町大字荒塚小字内丸一番地  
昭和青年會本部  
代表 有留弘泰

印刷所

京都府龜岡町天恩郷  
天聲社  
振替大阪七五九一七番



超非常時  
日本國民必讀の航空防讀本

# 舉國制空

四六判 百十頁  
挿繪寫真 四十葉  
定價 貳拾錢  
百部以上一括申込

一部 拾五錢の割

陸軍中將 四王天 延孝閣下序文  
海軍中將 松山 茂閣下序文  
本會總裁 出口王仁三郎先生序文

京都市府廳岡町天恩郷  
昭和青年會本部  
振替大七五八八番

所澤陸軍飛行學校長廣瀬猛閣下は本書を評して「内容は誠に簡にして要を得、特に我國陸海兩軍及民間航空の趨勢を詳述し、専門的技術的難解の部を避け、文章を平易にし諒解し易からしむ。蓋し其透徹せる航空知識の豊富なるにあらざれば企及し能はざる事業なり云々」と賞讃し感謝の辭を寄せられ、某元帥副官は「全篇愛國熱誠の迸りなり」と感激せられたる。

今や日本は暴戻非道なる國際聯盟と絶縁し、自主獨往東洋平和の確保と皇國國是の貫徹を期し、以て天下の經綸を行はんとしてゐる。是が爲には「舉國制空」以て海と陸よりする敵國空軍を撃破し、更にアジア並に世界の空を制するの實力を涵養する事が最大の急務である。特に愛國の士女と報國の團體に本書を推奨する所以である。

# 終